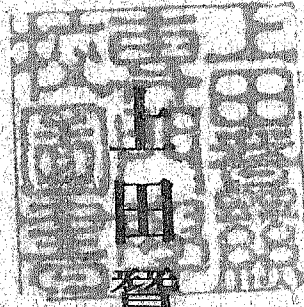


圖書課備用



專上田蠶絲專門學校一覽

大正九年

上田蠶絲專門學校一覽

目次

第一 學年歷	一頁
第二 沿革略	三
第三 法令	一五
一 文部省直轄諸學校官制抄	一五
二 文部省直轄諸學校專任職員定員令抄	一八
三 高等官官等俸給令抄	一八
四 判任官俸給令抄	二一
五 文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件	二三
六 官吏服務規律	二四
七 文部省直轄諸學校長特別任用規定	二七

八	文部省直轄諸學校長職務規定	二七
九	文部省直轄諸學校雇外國人使用ニ關スル規定	二八
十	專門學校令抄	二九
十一	實業學校令抄	二九
十二	上田蠶絲專門學校規定抄	三〇
十三	文部省直轄實業專門學校委託生規定	三一
十四	專門學校入學者檢定規程	三四
十五	甲種程度ノ實業學校卒業者入學ニ關スル件	三六
十六	文部省直轄學校中二箇以上ノ學校へ入學出願者入學方	三六
十七	文部省直轄學校外國人特別入學規定	三七
十八	學生生徒身體檢査規程抄	三八
第四	上田蠶絲專門學校規則	四四
第一章	總則	四四
第二章	學科規程	四四

第三章	學年、學期及休業日	五三
第四章	入學、在學、退學及處罰	五四
第五章	修業及卒業	五八
第六章	入學試驗、手數料、授業料、實習實驗費	五九
第七章	研究生	六二
第八章	選科生	六三
第九章	寄宿舍	六四
第五	上田蠶絲專門學校諸規程	六八
一	校務分掌規程	六八
二	職員服務規程	七三
三	校醫服務規程	七五
四	宿直規程	七六
五	物品會計規程細則	七八
六	成績考查規程	八四

七	學生心得	八六
八	總代規程	八九
九	學生制服規程	九〇
十	寄宿舍規程	九七
十一	寄宿舍細則	九九
十二	通學規程	一〇八
十三	授業料規程	一〇八
十四	傭人規程	一〇九
十五	非常手配規程	一一一
十六	參觀規程	一一四
第六	職員	一二五
第七	學生	一二二
一	學生氏名	一二二

第八

卒業者

一	卒業者氏名	一四六
二	卒業者年度別	一五七
三	卒業者本籍就職地方別	一六〇
四	卒業者職業別	一六一

附

錄

二	學生地方別	一三〇
三	學生出身學校別	一三三
四	學生修業學校別	一四一
五	學生年齡調	一四二
六	入學志願者及入學者修業學校別	一四二
一	上田蠶絲專門學校々友會規則	一六二
二	校友會役員	一六六

目

次終

上田蠶絲專門學校一覽

第一學年曆

四月一日	第一學期始
四月三日	神武天皇祭
四月十日	春季休業終
四月十七日	本校記念日
五月廿七日	海軍記念日
七月三十日	明治天皇祭
八月一日	夏季休業始
八月三十一日	天長節
八月三十一日	第一學期終
九月一日	第二學期始

秋 分 日

秋季皇靈祭

九 月 十 日

夏季休業終

十 月 十 七 日

神 嘗 祭

十 月 第 三 日 曜 日

本校運動會

十 月 三 十 一 日

天長節祝日

十 一 月 二 十 三 日

新 嘗 祭

十 二 月 二 十 五 日

冬季休業始

十 二 月 三 十 一 日

第二學期終

一 月 一 日

新年拜賀式

一 月 一 日

第三學期始

一 月 十 日

冬期休業終

二 月 十 一 日

紀 元 節

三 月 十 日

陸軍記念日

春 分 日

春季皇靈祭

三月二十五日

春期休業始

三月三十一日

第三學期終

第二 沿革略

明治四十三年

三月二十六日勅令第六十六號ヲ以テ本校ノ設置ヲ公布セラル

三月二十六日勅令第六十七號ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人、教授四人、助教授

四人、書記三人ト定メラル

八月十三日文部省視學官針塚長太郎本校々長ニ任セラル

八月二十五日文部省告示第二百五號ヲ以テ本校ノ位置ヲ長野縣小縣郡上田町

トシ明治四十四年四月ヨリ授業ヲ開始スル旨告示セラル

八月二十五日文部省告示第二百六號ヲ以テ本校ノ事務ハ當分ノ間文部省内ニ

於テ之ヲ取扱フ旨告示セラル

十二月十三日付ヲ以テ本校規則制定ノ件許可セラル

十二月十四日文部省令第三十三號ヲ以テ本校規程ヲ公布セラル

十二月十四日文部省告示第二百三十七號ヲ以テ甲種定度ノ實業學校卒業者但シ志望學科ト同種類若クハ類似ノ學科ヲ修メタル者ニ限ルヲ本校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト指定セラル

十二月十五日養蠶科製絲科ヲ通シテ約百名ノ生徒ヲ募集ス

明治四十四年

二月二十一日文部省告示第二十八號ヲ以テ文部省内ニ於テ取扱ヒ來リタル本校ノ事務ハ全月二十四日ヨリ長野縣小縣郡上田町ノ本校内ニ於テ取扱フ旨告示セラル

三月廿七日ヨリ四日間本校第一回入學試驗ヲ東京、上田ニ於テ施行ス

三月三十一日勅令第七十三號ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人、教授六人、助教四人、書記四人ニ改正セラル

四月六日入學志願者四百一名ノ内養蠶科四十九名、製絲科四十五名、合計九十四名ニ入學ヲ許可ス

四月十一日勅語謄本下賜セラル

四月十七日本校始業式ヲ舉行ス

四月十八日入學宣誓式ヲ舉行ス文部省實業學務局長工學博士眞野文二臨席セラル

四月十九日授業ヲ開始ス

六月十二日 聖上 皇后兩陛下ノ御眞影並ニ敎育ニ關スル 御親署ノ勅語ヲ

下賜セラル

六月二十三日本校々友會發會式ヲ舉行ス

十二月十五日養蠶科製絲科ヲ通シテ約九十名ノ生徒ヲ募集ス

十二月二十日付ヲ以テ本校物品會計規程細則並ニ帳簿用式制定ノ件許可セラ
ル

明治四十五年

三月二十五日ヨリ四日間本校第二回入學試驗ヲ上田東京及廣島ニ於テ施行ス

四月五日入學志願者二百七十八名ノ内養蠶科三十七名製絲科三十七名合計七

十四名ニ入學ヲ許可ス

四月十六日第二回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月二十九日勅令第百三十號ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人、教授十四人、助教

授十人、書記五人ニ改正セラル

七月三十日 明治天皇御崩御ニ付御尊影奉拜式ヲ舉行ス

大正元年

九月十三日 明治天皇御大喪儀ニ付校長針塚長太郎供奉並葬場殿參列ヲ命セ

ラル

九月十三日 明治天皇御大喪儀ニ付本校講堂ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

十一月十五日 本校工事略ホ終了シ文部省建築課出張所閉鎖セラル

十一月二十八日 本校規則中學科課程、休日其他改正ノ件許可セラル

大正二年

三月二十四日ヨリ四日間第三回入學試驗ヲ上田、東京及京都ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百六十六名ノ内養蠶科三十五名、製絲科三十一名合計六十

六名ニ入學ヲ許可ス

四月十一日第三回入學宣誓式ヲ舉行ス

六月十三日勅令第百八十三號ヲ以テ本校職員定員中教授十四人ヲ十三人ニ改メラル

十月十五日開校式ヲ舉行ス針塚校長ノ式辭、建築課長ノ報告、文部大臣、長野縣知事直轄諸學校長等ノ祝詞アリ來賓ハ文部大臣代理松浦文部省専門學務局長、依田長野縣知事、大島第八高等學校長外五百餘名ナリ

十二月一日養蠶科、製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正三年

二月六日第二製絲工場火災ニ罹リタリ

三月二十一日第一回ノ卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科四十五名、製絲科四十名、選科七名

三月二十四日ヨリ四日間第四回入學試驗ヲ上田、東京及京都ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百三十三名ノ内養蠶科三十三名、製絲科三十三名、合計六十

六名ニ入學ヲ許可ス

四月十三日第四回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月二十四日 昭憲皇太后御大喪儀ニ付校長針塚長太郎供奉並葬場殿參列ヲ命
セラル

五月二十四日 昭憲皇太后御大喪儀ニ付本校講堂ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

六月二日參觀規定制定

七月三十日 明治天皇祭ニ付遙拜式ヲ舉行シ講堂ニ於テ校長ノ講話アリ

十月十九日第一回陸上運動會ヲ舉行ス

十一月四日第二製絲工場改築セリ

十二月一日養蠶科製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正四年

一月二十四日寄宿舍一棟及附屬建物新築セリ

二月六日學生制服規程中ニ改正アリ

三月五日學校規則中ニ改正授業料ノ件アリ

三月九日寄宿舍規程ヲ制定ス

全 寄宿舍細則ヲ改正ス

三月二十二日第二回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科三十二名、選科三名

製絲科本科三十一名、選科二名

三月二十四日ヨリ四日間第五回入學試驗ヲ上田、東京及京都ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百十二名ノ内、養蠶科三十名、製絲科二十九名、合計五十九名

ニ入學ヲ許可ス

四月十三日第五回入學宣誓式ヲ舉行ス

四月二十五日山階宮芳麿王殿下中央幼年學校ノ職員生徒ト御來校御參觀遊ハ

サル

十月二十五日 聖上陛下ノ御眞影下賜セララル

十一月十日 御即位奉祝式ヲ舉行ス

十一月十四日針塚校長大嘗祭ニ參列ヲ命セララル

十一月十六日針塚校長大饗宴ニ參列ヲ命セララル

十二月一日本校規則中ニ改正(休學ニ關スル件)アリ

十二月三日養蠶科、製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正五年

三月二十一日第三回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十七名選科六名

製絲科本科二十三名

三月二十四日ヨリ四日間第六回入學試驗ヲ上田、東京及京都ニ於テ施行ス

三月三十日入學志願者百三十九名ノ内養蠶科三十五名、製絲科二十五名、合計六

十名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第六回入學宣誓式ヲ舉行ス

十月十五日第二回陸上大運動會ヲ舉行ス

十月二十一日 皇后陛下御眞影 皇太子殿下御影下賜セラル

十一月三日 立太子禮奉祝式ヲ舉行ス

十一月二十日生物學教室、製圖教室ノ二棟新築セリ

十二月七日養蠶科、製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正六年

三月二十一日第四回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十一名、選科六名

製絲科本科三十二名

三月二十八日ヨリ四日間第七回入學試驗ヲ上田、東京、仙臺、名古屋及熊本ニ於テ

施行ス

四月六日入學志願者三百二十一名ノ内養蠶科三十九名、製絲科三十六名、合計七

十五名ニ入學ヲ許可セリ

四月十四日第七回入學宣誓式ヲ舉行ス

十二月四日養蠶科製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正七年

三月二十一日第五回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科卒業廿六名、選科一名

製絲科本科卒業十六名
修業二名選科四名

三月二十三日ヨリ四日間第八回入學試驗ヲ上田、東京、福島、名古屋及熊本ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者二百五十八名ノ内養蠶科三十二名、製絲科三十二名、合計六十四名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第八回入學宣誓式ヲ舉行ス

四月十七日選科生入學試験ヲ施行シ養蠶科四名、製絲科二名ニ入學ヲ許可セリ
六月一日本校備人規程ヲ改正ス

七月二十日本校職員定員敎授十三人ヲ十四人ニ助敎授十人ヲ九人ニ改正セラ
ル

十月八日第三回陸上大運動會ヲ舉行ス

十二月一日養蠶科、製絲科ヲ通シテ約八十名ノ生徒ヲ募集ス

大正八年

三月十五日第六回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十八名、選科三名

製絲科本科十 九名、選科一名

三月十九日ヨリ四日間第九回入學試験ヲ上田、東京、名古屋、熊本及仙臺ニ於テ施行ス

三月十九日新設ノ絹絲紡績科ニ約二十名ノ生徒ヲ募集ス

四月一日ヨリ四日間絹絲紡績科入學試験ヲ上田、東京ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百九十七名ノ内養蠶科三十二名、製絲科二十五名、合計五十

七名ニ入學ヲ許可セリ

四月六日絹絲紡績科入學志願者二十八名ノ内十名ニ入學ヲ許可ス

四月十六日選科生入學試験ヲ施行シ養蠶科五名、製絲科一名ニ入學ヲ許可ス

四月十九日第九回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月一日本校規程中改正（學科改正、絹絲紡績科新設ノ件）アリ

五月七日 皇太子殿下御成年式舉行

七月七日 皇太子裕仁殿下本校ヘ行啓遊ハサレ高等官ニ拜謁仰付ラル

十月五日第四回陸上大運動會ヲ舉行ス

十二月四日養蠶科製絲科、絹絲紡績科ヲ通シテ約九十名ノ生徒ヲ募集ス

十二月八日本校職員定員敎授十四人ヲ十六人ニ書記五人ヲ六人ニ改正セラル

大正九年

三月十五日卒業修業証書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十六名、選科三名

製絲科本科二十八名、選科三名

三月十七日本校規程中改正(本校ノ卒業生他ノ本科選科ニ入學志願ノ者無試験入學許可ノ件アリ)

三月二十七日ヨリ四日間第十回入學試験ヲ上田、東京、名古屋、下關及仙臺ニ於テ

施行ス

四月一日入學志願者三百五十一名ノ内養蠶科十八名、製絲科十九名、絹絲紡績科

十四名合計五十一名ニ入學ヲ許可セリ

四月十三日第十回入學宣誓式ヲ舉行ス

六月二日本校規程中改正(保証人廢止ノ件アリ)

第三 法 令

一、文部省直轄諸學校官制抄（明治二十六年勅令第百八十六號明治四十五年五月二十九日勅令第百三十號ヲ以テ改正）

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校

廣島高等師範學校

東京女子高等師範學校

奈良女子高等師範學校

盛岡高等農林學校

鹿兒嶋高等農林學校

上田蠶絲專門學校

東京高等蠶絲學校

京都高等蠶業學校

神戸高等商業學校

長崎高等商業學校

山口高等商業學校

小樽高等商業學校

第一高等學校

第二高等學校

第三高等學校

第四高等學校

第五高等學校

第六高等學校

第八高等學校

松本高等學校

松山高等學校

山形高等學校

千葉醫學專門學校

金澤醫學專門學校

新潟醫學專門學校

大阪高等工業學校

名古屋高等工業學校

米澤高等工業學校

橫濱高等工業學校

秋田鑛山專門學校

東京美術學校

第七高等學校造士館

新潟高等學校

山口高等學校

水戸高等學校

佐賀高等學校

岡山醫學專門學校

長崎醫學專門學校

東京高等工業學校

京都高等工藝學校

熊本高等工業學校

桐生高等工業學校

廣島高等工業學校

東京外國語學校

東京音樂學校

東京盲學校

東京聾啞學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒監

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ

監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於

テハ兼任教官ヲ置キ若ハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

二、文部省直轄諸學校專任職員定員

令抄

明治三十五年勅令第九十九號
明治四十五年五月廿九日勅令第百三十號
大正二年六月十三日勅令第百八十三號

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

	校	長	教	授	助	教	授	書	記
上田蠶絲專門學校	一	人	十六	人	九	人	六	人	

三、高等官官等俸給令抄

(明治四十三年三月二十
六日勅令第百三十四號)

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以

ヲ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス
第四條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラル、場合ニ於テハ其ノ
官等ハ前官ノ官等以下トス

但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコ
トヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規程ニ拘ラス陞ンテ六等官ニ至ルコ
トヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除
キ在職二年ヲ超ユルニ非ザレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十條 文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニアリ功績アル者ハ
二十七人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコト
ヲ得ス

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ

依ル

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等同第三號ニ依ルモノハ高等官五等乃至八等同第四號ニ依ルモノハ高等官六等以下同第五號ニ依ルモノハ高等官三等以下トス

第二十二條 別表第二表第五號ニ依ル諸官左ノ如シ(抄)

文部省直轄諸學校敎授

第二十三條 別表第二表第五號ニ依ル諸官及奏任技術官ハ各廳事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第三十一條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第三十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸金額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第三十五條 休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ事務ニ従事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第三十六條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニアラス

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二表 第五號

奏任文官年俸表 (文部省直轄學校教授)

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
三、〇〇〇	二、七〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	八五〇	七五〇

第五表

一級	二級	三級	四級	五級
三、七〇〇	三、〇〇〇	二、九〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇

文部省直轄諸學校校長
(東京官學校校長東京蠶
糸學校校長ヲ除ク)

四、判任官俸給令抄

(明治四十三年三月二十
六日勅令第百六十五號)

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス

但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特ニ百

貳拾圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸四十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額

ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸三月分ノ額ニ相當スル死亡賜

金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ニ依ル

附 則

學令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別 表)

級 俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十二級
月 額	九五 <small>円</small>	七五 <small>円</small>	六五 <small>円</small>	五五 <small>円</small>	五〇 <small>円</small>	四五 <small>円</small>	四〇 <small>円</small>	三五 <small>円</small>	三〇 <small>円</small>	二五 <small>円</small>	二〇 <small>円</small>

五、文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ

關スル件 (明治四十三年三月二十
六日勅令第五百五十四號)

法 令

文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件
判任官俸給令抄

第一條 文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 文部省直轄諸學敎校官ニシテ一校又ハ數校ノ敎官ヲ兼任スル者ニハ本官及兼官ニ於ケル授業ノ時間又ハ學科難易輕重ニ依リ其ノ俸給額ヲ分割シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第三條 文部省直轄諸學校ノ囑託講師ニハ敎官俸給額ノ中ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四條 前三條ハ東北帝國大學農學部附屬大學豫科、土木工學科、林學科、水產學科又ハ臨時敎員養成所ノ敎授又ハ講師ニ之ヲ準用ス

六、官吏服務規律

(明治二十年七月三十日勅令第百三十九號)

第一條 凡ソ官吏ハ 天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スベシ

第二條 官吏ハ其ノ職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其ノ命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官
ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受ク
ルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離
ルコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナ
ルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀
又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ク
ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ 天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者

一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品ヲ調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其ノ家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係

スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其ノ分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乗船無賃乗車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其ノ他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其ノ過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニアラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其ノ情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

七、文部省直轄諸學校長特別任用

法 令

管理服務規程
文部省直轄諸學校長特別任用

規程

(大正二年六月十三日
勅令第二百三十七號)

文部省直轄諸學校校長ハ勅任教官ノ職ニ在リタル者又ハ三年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

ハ、文部省直轄諸學校校長職務規程

(明治三十三年六月十
八日文部大臣訓令)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキノ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ

但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スベシ

第一、教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二、規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三、俸給月額五十圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四、教官以下内國各地出張ニ關スルコト

第五、教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六、講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七、經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八、三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ゲタル事項ノ外總テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

九、文部省直轄諸學校雇外國人使用ニ

關スル規程

(明治二十六年九月九日勅令第九十六號)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

十、專門學校令抄

(明治三十六年三月廿七日勅令第六十二號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

法 令

文部省直轄諸學校長職務規程
文部省直轄諸學校雇外國人使用ニ關スル規程
專門學校令抄

專門學校ハ特別ノ規程アル場合ヲ除クノ外本令ノ規程ニ依ルヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ、中學校若ハ修業年限四ヶ年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三ヶ年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

十一、實業學校令抄

(明治三十二年二月七日勅令第二十九號)

第一條 實業學校ハ工業、農業、商業等ノ實業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校及實業補習學校

トス

實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

蠶業學校、山林學校、獸醫學校及水產學校等ハ農業學校ト看做ス

徒弟學校ハ工業學校ノ種類トス

第八條 實業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之

ヲ定ム

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

十二、上田蠶絲專門學校規程抄

(明治四十三年十二月十四日
日文部省令第三十三號)

上田蠶絲專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生及選科生ニ關スル
規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

法 令

實業學校令抄
上田蠶絲專門學校規程抄

上田蠶絲專門學校規程

第一條 上田蠶絲專門學校ノ修業年限ハ三ケ年トス

第二條 上田蠶絲專門學校ノ學科ハ養蠶科製絲科及絹絲紡績科トス

第三條 上田蠶絲專門學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ必要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

學科目等略之

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科目ニ就キ研究セントスル者ハ研究生トシテ二箇年以內在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科中ノ一學科目若ハ數學科目ヲ專修セントスル者ハ選科生トシテ在學ヲ許スコトヲ得

十三、文部省直轄實業專門學校委託生

規程

(明治四十年七月廿五日
文部省令第二十三號)

第一條 北海道府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體及私人ハ文部省直轄實業專門學校生徒ニシテ卒業後其ノ公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ敎職ニ從事スヘキ者ニ學費ヲ補給シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得

第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ選定ヲ當該學校長ニ委嘱スルコトヲ得

第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補給スヘキ學資ハ一ヶ月拾圓以上トス

第四條 委託生ニハ授業料ヲ徵收セス

第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學資補給ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ敎職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第六條 委託生ニシテ在學中半途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若ハ卒業後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ補給ヲ受ケタル學資ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ

但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情況アリト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部償還ヲ免除スルコトヲ得

- 一、前條ノ義務ヲ盡サ、ルトキ
- 二、懲戒免職ニ處セラレタルトキ
- 三、免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

十四、專門學校入學者檢定規程

(明治三十六年三月三十日
文部省令第十四號)

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年
以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノト
ス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一、年齡男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト
- 二、身體健全ナルコト
- 三、品行方正ナルコト

四、現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試驗檢定、無試驗檢定ノ二トシ試驗檢定ハ官立公立ノ中學校

若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタルモノニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題及答案成績表ハ五ヶ年以上保存スヘシ

第七條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

二、明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試驗ニ合格シタル者

十五、甲種程度ノ實業學校卒業者入學ニ

關スル件

(明治四十三年十二月十四日
日文部省告示第二三七號)

明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ左記ノ者ヲ上田蠶絲專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定ス

一、甲種程度ノ實業學校卒業者但シ志望學科ト同種類若ハ類似ノ學科ヲ修メタル者ニ限ル

十六、文部省直轄學校中二個以上ノ學校へ

入學出願者入學方

(明治三十六年文部
省告示第九十六號)

同一人ニシテ文部省直轄諸學校中ノ二個以上ノ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學許可セラレタル學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二個以上ノ

學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

十七、文部省直轄學校外國人特別入學規

程

(明治三十四年十一月十一日
文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタル時ハ相當ノ學力アリト認メタルモノニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

法 令

文部省直轄學校中二個以上ノ學校ヘ入學出願者入學方
文部省直轄學校外國人特別入學規程

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料、入學料及授業料ヲ徵收セザルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト看倣ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

十八、學生生徒身體檢查規程抄

(明治三十三年文部省令第四號)

第一條 學生生徒ノ身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スベシ

(明治四十五年一月廿六日文部省令第一號ヲ以テ改正)

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立

學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

第三條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合

ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

一、身長 二、體重 三、胸圍 四、脊柱 五、體格

六、視力 七、眼疾 八、聽力 九、耳疾 十、齒牙

十一、疾病

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ検査スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認ムル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

一、(削除)

二、検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ分ニ止ムヘシ

- 三、身長ヲ測定スルニハ足袋、靴ヲ脱セシメ兩蹠ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ髭アル者ハ小桿ヲ髭下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 四、體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 五、胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ充盈、空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス
- 六、脊柱ハ正、左彎、右彎、前屈、後屈ヲ検査シ屈彎ニ就キテハ其ノ程度ニ依リ各強中弱ノ三種ニ區別スヘシ
- 七、體格ハ强健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
- 八、視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査スヘシ
- 九、聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十、齒牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ

前各號ノ外身體檢査上必要ト認メタル事項ハ特ニ檢査ヲ行フヘシ

身體檢查票

[illegible]

法令
學生生徒身體檢查規程抄

上田蠶絲專門學			
年 齡		身 長	
總	長	總	長
最	大	最	大
平	小	平	小
最	均	最	均
重	重	重	重
最	大	最	大
平	小	平	小
體	體	體	體
重	重	重	重
最	大	最	大
平	小	平	小
胸	胸	胸	胸
圍	圍	圍	圍
常	常	常	常
時	時	時	時
盈	盈	盈	盈
虛	虛	虛	虛
ノ	ノ	ノ	ノ
差	差	差	差
正	正	正	正
左	左	左	左
彎	彎	彎	彎
右	右	右	右
彎	彎	彎	彎
前	前	前	前
屈	屈	屈	屈
後	後	後	後
屈	屈	屈	屈
強	強	強	強
中	中	中	中
弱	弱	弱	弱
體	體	體	體
格	格	格	格
強	強	強	強
中	中	中	中
弱	弱	弱	弱
視	視	視	視
力	力	力	力
兩	兩	兩	兩
眼	眼	眼	眼
左	左	左	左
眼	眼	眼	眼
右	右	右	右
眼	眼	眼	眼
眼	眼	眼	眼
疾	疾	疾	疾
力	力	力	力
耳	耳	耳	耳
齒	齒	齒	齒
牙	牙	牙	牙
齒	齒	齒	齒
疾	疾	疾	疾
病	病	病	病
檢	檢	檢	檢
查	查	查	查
人	人	人	人
員	員	員	員
考	考	考	考

- 一、本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及ビ學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スベシ
- 一、年齡ハ四月一日ノ計算ニヨリ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ス
- 一、身長、胸圍ニ係ル總長、體重ニ係ル總重ノ各欄ニハ孰モ同一年齡ニ於ケル各検査人員ノ身長、胸圍又ハ體重ノ各合計ヲ掲ゲ最大最小ノ各欄ニハ其ノ検査人員中ノ最大最小ナルモノヲ掲ゲ平均ノ各欄ニハ其ノ検査人員ヲ以テ身長、胸圍ノ總長又ハ體重ノ總重ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一、視力ニ就キテハ兩眼ノ欄ニハ兩眼トモ正視、遠視、近視、又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ゲ左眼又ハ右眼ノ欄ニハ左眼又ハ右眼ノ一方ノミ正視、遠視、近視、又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲クヘシ但シ失明者ニ關シテハ兩眼又ハ片眼ニ區別シ備考ノ欄ニ於テ其ノ數ヲ示スヘシ
- 一、検査スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計入スヘカラス
- 一、外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス
- 一、備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記入スヘシ
- 一、學校ニ於ケル重ナル疾病ノ原因及豫防等ニ關シ學校醫等ノ意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

第四 上田蠶絲專門學校規則

第一章 總 則

第一條 本校ハ實業學校令及專門學校令ニ依リ蠶絲業ニ從事スヘキ者ニ高等ノ學術、技藝ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條 本校本科ノ學科ヲ分チテ養蠶科、製絲科、絹絲紡績科トス

第三條 各學科ノ修業年限ハ各三ケ年トス

第四條 本校ニハ研究生及選科生ヲ置クコトアルヘシ

研究生及選科生ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本科生ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 學科課程

第五條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ必要ノ場合ニ於テハ教授時間、定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ、又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

養蠶科

講義ノ部 (每週教授時數)

學科目	學期	第一學年			第二學年			第三學年		
		學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
修身語	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
獨逸語	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
動物學	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
植物學	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
微生物學	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遺傳學	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
測量學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
物理學	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
氣象學	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
化學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
生理學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
土壌學及肥料學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
法制及經濟學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
農業學	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
蠶業學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
蠶種學	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
養蠶學	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一

蠶體解剖及蠶體生理學	蠶病學	桑樹學	昆蟲學	農蠶業經營學	符記	殺蛹乾繭及屑物整理論	製絲學	織維學	體操	計
		一							二	三三
									二	三三
		一							二	三三
									二	三三
		一							二	三三
一			二						二	二二
									二	二五
			二						二	二六
			二						二	二二
			二						二	二二
			二						二	二二
		四			三				二	二二
					三				二	二四
					三				二	二五

備考 每週教授時數ハ實習ノ繁閑ニ依リ之ヲ増減スルコトアルベシ

但シ修身ノ每週教授時數ハ之ヲ減ズルコトヲ得ズ

實習實驗ノ部 (每週教授回數)

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
動物實驗	第一期			
植物實驗	第二期		一	
物理實驗	第三期		一	
化學實驗	第一期	一		
	第二期	一		
	第三期	一		
	第一期			
	第二期			
	第三期			

蠶種	蠶兒飼育	蠶體解剖	微生物及蠶體病理實驗	繭場實習	繭檢査	殺繭乾	製絲	生絲檢査	屑物整理	纖維實驗
	二			無定時						
無定時				同上						
				同上						
				同上						
無定時	二		一	同上		一				
			一	同上						
			一	同上						
			一	同上		一				
無定時	二		一	同上						
			一	同上						

備考 各實習實驗一回ノ時間ヲ三時間トス

蠶兒飼育(無定時)及殺繭乾繭(一回三日)ノ回数ハ一學期間ノ回数トス

製絲科

講義ノ部 (每週教授時數)

學科目		學身		學期		學年	
佛蘭西語	二	三	一	學期	第一	學期	第一
英	二	三	一	學期	第二	學期	第二
修	二	三	一	學期	第三	學期	第三
				學期	第一	學期	第一
				學期	第二	學期	第二
				學期	第三	學期	第三
				學期	第一	學期	第一
				學期	第二	學期	第二
				學期	第三	學期	第三
				學期	第一	學期	第一
				學期	第二	學期	第二
				學期	第三	學期	第三

蠶桑論	燃絲及機械論	色染論	絹紡績論	生絲貿易論	工場衛生論	工場管理論	簿記學	製絲業經營學	纖維整理學	屑物整理學	生絲整理及生絲檢查論	製絲學	乾絲學	製絲原料論	商業通論	法制及經濟學	工業化學	機械設計學	機械工學	應用力學	物理學	數學
四												二	一	一		二		二	三		四	六
四									一			二	一	一		二		二	一		四	五
三									一			二	一	一		二		二	一		四	三
三					二						一	二			一	二		二	一	三	三	
一					一	二					二	二			一	二		二	一	三	三	
一					一	三					二				一	二		二	一	三	三	
	二	一	二					一	二	二				二		二			一	三		
	二	一	二	二				二	一	二				一		二		一	三			
	一	二	二					二	一	二				二		二		一	三			

體	計	操
二	三三	二
二	三二	二
二	二八	二
二	二六	二
二	二六	二
二	二五	二
	二四	
	二四	
	二三	

備考 每週教授時數ハ實習ノ繁閑ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ
但シ修身ノ每週教授時數ハ之ヲ減スルコトヲ得ス

實習實驗ノ部 (每週教授回數)

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
物理實驗									
化學實驗									
機械實習									
製繭檢査									
繭殺繭乾貯繭									
製絲									
生絲整理及生絲檢査									
工場管理									
屑物整理									
顯微鏡使用法									
織維實驗									
紡績實驗									

乾 燥 學 論	化 學 論	法 制 及 經 濟 學 論	商 業 通 論	綿 絲 紡 績 論	麻 絲 紡 績 論	絹 絲 紡 績 論	毛 絲 紡 績 論	莫 大 小 論	燃 絲 及 機 織 論	織 物 仕 上 論	精 練 漂 白 論	色 染 論	織 維 學 論	工 業 經 濟 學 論	工 業 簿 記 學 論	工 場 衛 生 論	工 場 建 築 論	製 絲 學 論	養 蠶 學 論	體 操 學 論	
二	二	二	三					二											三	二	三六
二	二	二	三					二								一			三	二	三四
二	二	二	三					一								一			三	二	三三
二	二	二	一	二	二	二		二									一		二	二	二八
一	二	二	一	一	二	二		二									一		二	二	二七
二	二	二	一		三	一		二									一			二	二七
							三	一							一						二六
							二				二	二	二	二	一						二六
			二				三	一			一	二	二	二	二						二五

備考 每週教授時數ハ實習ノ繁閑ニ依リ之ヲ増減スルコトアルベシ但シ修

身ノ每週教授時數ハ之ヲ減ズルコトヲ得ズ

實習實驗ノ部（每週教授回數）

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
物理實驗									
化學實驗									
機械工學實習									
製絲及機械									
紡絲及機械									
分色圖案									
顯微鏡使用法									
織維實驗									
製兒飼育									

備考 各實驗實習一回ノ時間ヲ三時間トス但製圖ハ二時間トス

蠶兒飼育(無定時)ノ回數ハ一學期間ノ回數トス

第一學期ノ回数ハ之ヲ増加スルコトアルヘシ

第三章 學年、學期及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期ハ四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二學期ハ九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三學期ハ一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第八條 休業日ハ左ノ如シ

一、祝日、大祭日

一、日曜日

一、本校記念日 四月十七日

一、春季休業 自三月二十五日
至四月十日

一、夏季休業 自八月十一日
至九月十日

但實習ノ都合ニ依リ變更スルヲアルヘシ

一、冬季休業

自十二月二十五日
至翌年一月十日

第四章 入學、在學、退學及處罰

第九條 學生ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メ一箇月以内トス

第十條 各學科第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行方正、志望鞏固、年齡十七年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且ツ入學試驗及ビ體格檢查ニ合格シタル者タルヘシ

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ據ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者

四、甲種程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者但志望學科ト同種類若ハ類似ノ學科ヲ修メタル者ニ限ル

前項第一號第三號又ハ第四號ニ該當スル學校ニ在學シ本校入學試驗期日前

ニ卒業スヘキ見込アル者ハ當該學校長ノ證明ヲ得テ入學試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條 入學試驗ノ學科目ハ國語、漢文、英語、數學、物理、化學、及養蠶科ニアリテハ動物、植物、製絲科及絹絲紡績科ニアリテハ幾何、畫、トシ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行ヒ別ニ體格檢査ヲ行フ

第十二條 入學ヲ出願スル者ハ第二條ニ掲ゲタル學科中ニ就キ其ノ志望學科ヲ定メ左ノ書類ニ入學試驗手数料及寫眞、入學志願前六箇月以内ニ撮影シタル脱帽半身手札形ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

一、入學願書（第十號書式）

二、履歷書（第二號書式）

三、戶籍抄本

四、第十條第一號第三號又ハ第四號ニ該當スル學校長ノ卒業證明書（第三號書式）若ハ第二號合格證明書（第四號書式）

第十三條 本校ヲ卒業シタル者ニシテ他ノ學科ノ本科又ハ選科ニ入學ヲ出願ス

ルトキハ無試験ニテ入學ヲ許可スルコトアヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ許可ノ日ヨリ二十日以内ニ誓書(第五號書式)ヲ本校ニ差出スヘシ

第十五條 本校ヲ退學シタル者再入學ヲ願出テタルトキハ缺員アル場合ニ限り詮議ノ上試験ヲ行ヒ原級以下ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但シ場合ニ依リ試験ヲ省略ス試験ノ全部ヲ省略シタルトキハ入學試験手数料ヲ徴收セス

第十六條 學生ハ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

第十七條 學生疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ缺席スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ三日以内ニ届出ツヘシ但シ病氣ノ爲メ缺席七日以上ニ亘ル者ハ醫師ノ診断書ヲ添付スルヲ要ス

第十八條 學生疾病ニ依リ引續キ三箇月以上修業シ能ハスト思料スルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ願書ヲ學校長ニ差出シ許可ヲ得テ一箇年以内休學スルコトヲ得但シ休學中其ノ事由消滅シタルトキハ許可ヲ得テ一科目又ハ數科目ノ授業ニ出席シ又ハ次學年ニ於テ休學ノ解除ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ休學期間滿了ノトキ更ニ原級ノ課程ヲ修ムヘシ

第十九條 學生改姓、改名、改印、轉籍等ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ届出ツヘシ但改姓、改名、轉籍ニハ戶籍抄本ヲ添フルヲ要ス

第二十條 學生在學中兵役ニ服スル者ハ學校長ノ許可ヲ得テ其ノ間休學スルコトヲ得

前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者服役ヲ終リタルトキハ直ニ原級ニ復歸スヘシ

第二十一條 學生ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他ノ學校ニ入り又ハ他學校若ハ官署ニ於ケル各種ノ試験ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受クルニハ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第二十二條 學生已ムヲ得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ父兄若クハ後見人連署ノ上學校長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

但シ疾病ニ因リ退學セントスル場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付ス

ルヲ要ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學業劣等若ハ身體虛弱等ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續キ一箇年以上缺席シタル者但シ休學ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限

リニアラス

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ三十日以上缺席シタル者

五、正當ノ事由ナクシテ屢々缺席シ出席常ナラサル者

六、授業料滯納二週日ニ亘ル者

第二十四條 學生ニシテ校規命令又ハ訓育ノ趣旨ニ違背シ其ノ本分ヲ失ヘリト

認ムヘキ行爲アル者ハ學校長之ヲ處罰ス

處罰ハ分チテ譴責、停學、放校トス

第五章 修業及卒業

第二十五條 各學年ノ課程修了ハ該學年中平素ノ勤惰及學業ノ成績等ヲ考查シ

テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ノ考查ニ合格セサル者ニハ次學年ノ始メヨリ原級ノ課程ヲ再修セシムルモノトス

第二十七條 已ムヲ得サル事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者追試験ヲ受ケンコトヲ願出ツルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ次學期ノ始メ二週日以内ニ之ヲ行フ

第二十八條 第三學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十九條 第三學年ノ成績考查ニ合格セサル者ニハ本人ノ希望ニ依リ詮議ノ上修業證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第三十條 成績考查ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 入學試験手数料、授業料、實習實驗費

第三十一條 入學試験手数料ハ金參圓トス

第三十二條 授業料ハ一學年本科生及研究生ハ金參拾五圓選科生ハ金貳拾五圓

トス

外國人ニシテ特別ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ授業料ハ一學年本科生及研究生ハ金七拾圓選科生ハ金五拾圓トス

第三十三條 授業料ハ一箇年ヲ左ノ三期ニ分チ每期ノ始メニ於テ之ヲ徴收ス

本科及研究生 同選科生 外國人本科生及研究生 同選科生

第一期 自四月至八月 金拾參圓 金拾圓 金貳拾八圓 金貳拾圓

第二期 自九月至十二月 金拾貳圓 金八圓 金貳拾貳圓 金拾八圓

第三期 自一月至三月 金拾圓 金七圓 金貳拾圓 金拾貳圓

第三十四條 研究生及選科生ニハ實習實驗ニ要スル費用ノ全部若ハ一部ヲ徴收スルコトアルヘシ

第三十五條 入學試驗手數料授業料及實習實驗費ハ一旦納付ノ後ハ何等ノ事由アリト雖モ之ヲ返付セス

第三十六條 實業學校教員養成規程ニ依ル學資補給希望者ニ對シテハ其ノ補給決定ニ至ル迄授業料徴收ヲ猶豫シ補給生トナリタルトキハ之ヲ徴收セス

第三十七條 停學ヲ命セラレタル者又ハ休學ヲ許可セラレタル者ハ其ノ期間内

授業料ヲ徴收セス但シ授業料徴收期日以前ニ停學又ハ休學シタルトキハ其ノ期ノ授業料ハ本科及研究生ハ金參圓五十錢選科生ハ金貳圓五十錢外國人本科生研究生ハ金七圓同選科生ハ金四圓五十錢トシテ指定ノ日ニ於テ之ヲ納付スヘシ

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ其ノ期ニ於ケル授業料ハ其ノ月ヨリ一箇月本科及研究生ハ金參圓五十錢選科生ハ金貳圓五十錢外國人本科及研究生ハ金七圓同選科生ハ金四圓五十錢ノ割ヲ以テ指定期日內ニ納付スヘシ但シ納付金ノ總額ハ當該期ノ納定額以內トス

一、停學ヲ解除セラレ就學シタル者

二、休學ノ事故止ミ就學シタル者

三、學期ノ半途ニ於テ入學ヲ許可セラレタル者

第三十九條 授業料ハ定日ニ納付スヘシ但シ定日以後ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ入學許可ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第四十條 授業料ヲ定日ニ納付セサルトキハ本人ニ之ヲ催告シ尙納付セサルト

キハ父兄若クハ後見人ニテ之ヲ催告ス

前項ノ催告ヲ受ケ尙納付セサルトキハ第二十五條ニ依リ處分ス

第七章 研究生

第四十一條 本校卒業者ニシテ既修ノ學科目ニ就キ更ニ研究セント欲スル者ア

ルトキハ詮議ノ上。研究生トシテ二箇年以内在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十二條 研究生タラント欲スル者ハ其ノ研究セント欲スル事項及在學ノ期

間ヲ具シタル願書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第四十三條 研究生ハ學校内ニ於テ研究ニ從事スル者トス但シ必要ノ場合ニ於

テハ或ル期間ヲ限り指導教官指揮ノ下ニ學校外ニ於テ研究スルコトヲ許可

スルコトアルヘシ

第四十四條 研究生ハ其ノ研究事項ヲ結了シタルトキハ研究報告書ヲ學校長ニ

差出スヘシ

第四十五條 學校長ハ研究報告書ヲ考查シ其ノ成績佳良ナリト認メタルトキハ

研究證明書ヲ授與ス

第八章 選 科 生

第四十六條 本校所定ノ各學科ノ中一學科目若ハ數學科目ヲ專修センコトヲ願出ツルモノアルトキハ詮議ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十七條 選科生トシテ入學ヲ許可スル者ハ左ノ各號ニ該當シ且本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

一、品行方正身體強健ナル者

二、年齡滿十七年以上ノ者

三、三箇年以上引續キ志望學科目ニ關スル業務ニ從事セル者又ハ實業學校ノ卒業者

第四十八條 選科生ノ入學時期ハ每學年ノ始メ一箇月以內トス但シ特別ノ場合ニハ學年ノ半途ニ於テ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十九條 選科生ニシテ在學中成績適當ナリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授

與ス

第九章 寄宿舍

第五十條 寄宿舍ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第一號書式 (用紙美濃)

入學願書

志望學科 何科

受験希望ノ場所 東京、上田又ハ名古屋等

私儀貴校何科へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書、卒業證明書(若ハ專門學校入學者試験檢定合格證明書)戶籍抄本、入學試験手数料及寫真相添此段相願候也

現住所

本籍地

族稱戶主 (若ハ戶主トノ續柄)

年 月 日

入學志願者

何 某 印

年 月 日 生

上田蠶絲專門學校長針塚長太郎殿

備考 本人氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ

第二號書式 (用紙美濃)

履 歷 書

現 住 所

本 籍 地

族稱戸主 (若ハ戸主トノ續柄)

何 某

年 月 日 生

一、學 業

何年何月迄何地官公私立何學校ニ於テ若ハ何某ニ就キ何學修業何年何月何地官公私立何學校ニ於テ何々修業證書若ハ卒業證書又ハ品行證明

書(別紙寫ノ通)ヲ受ク其ノ他重要ノ事項

一、職 業

何年何月何官職拜命若ハ何業ニ從事ス

何年何月退官廢業若ハ現今何官在職何從事等

一、賞 罰

何年何月何所ニ於テ何々ノ賞罰ヲ受ク等

一、家 業

何業

右ノ通相違無之候也

年 月 日

何 某 印

第三號書式(用紙美濃)

卒業證明書

族 稱

何 某

年月日生
右ハ年月日本校何學年ニ入學年月日全科ヲ卒業シタル者若ハ卒業スヘキ見込ノ者ナルコトヲ證明ス

年月日

何地官公私立何學校長

何

某

印

第四號書式 (用紙美濃)

證明書

族稱

何

某

年月日生

右ハ專門學校入學者檢定規程ニ據リ年月日本校ニ於テ施行シタル試驗檢定ニ合格シタル者ナルコトヲ證明ス

年月日

何地官公私立何學校長

何

某

印

第五號書式 (用紙美濃)

誓書

參入錢
收紙入

私儀今般貴校へ入學許可相成候ニ付テハ校規命令及訓育ノ御趣旨ヲ遵守シ
專心學業ヲ勉勵可致候仍テ誓書如此候也

現住所

本籍地

族稱戸主 (若ハ戸主トノ續柄)

年月日

何某印

年月日生

上田蠶絲專門學校校長針塚長太郎殿

第五 上田蠶絲專門學校諸規程

一、校務分掌規程

第一章 總則

第一條 校務ハ總ヘテ校長ノ指揮決裁ヲ經ルニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得
ス但シ事ノ簡易ニシテ先例アルモノハ主管者ニ於テ之ヲ專行スルコトヲ得

第二條 分掌セル校務ノ相關聯スルモノハ總ヘテ主管者ノ合議ヲ經ヘシ

第三條 校務ヲ分チテ教育及事務ノ二トナス

第二章 教 育

第四條 教育ヲ分チテ教授及訓育ノ二トナス

第五條 教授ハ各學科目ノ教官之ヲ掌ル

第六條 訓育ハ生徒監之ヲ掌ル

第三章 事 務

第七條 事務ハ庶務課、教務課、學生課、圖書課及會計課ノ五課ヲシテ之ヲ分掌セシ

ム

第八條 庶務課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、御眞影及勅語謄本ニ關スル事項

二、校內諸儀式ニ關スル事項

三、學校長ノ官印及學校印ノ保管ニ關スル事項

四、官吏及雇員等ノ進退賞罰及身分ニ關スル事項

五、叙位、叙勳ニ關スル事項

六、規則ノ制定、公命令ノ傳達ニ關スル事項

七、公文書類ノ接受、發送、審議立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

八、統計報告ニ關スル事項

九、名簿、履歷書、出勤簿ニ關スル事項

十、宿直ニ關スル事項

十一、會議ニ關スル事項

十二、校舍、校地ノ警備取締ニ關スル事項

十三、本校内外ノ掃除及除雪等ニ關スル事項

十四、傭人ノ進退賞罰取締ニ關スル事項

十五、門鑑ニ關スル事項

十六、他課ノ主管ニ屬セサル一切ノ事項

第九條 教務課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、教室、教具、教材ノ整理保管ニ關スル事項

- 二、標本室ニ關スル事項
 - 三、教授會ニ關スル事項
 - 四、學生募集ニ關スル事項
 - 五、授業及學科ニ關スル事項
 - 六、學生ノ入學、退學、休學其ノ他學籍ニ關スル事項
 - 七、學生總代ニ關スル事項
 - 八、試驗ニ關スル事項
 - 九、修學旅行及參觀ニ關スル事項
 - 十、教務課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項
 - 十一、教務課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
 - 十二、其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項
- 第十條 學生課ハ左ノ事務ヲ分擔ス
- 一、學生ノ訓育及賞罰ニ關スル事項
 - 二、學生ノ風儀取締ニ關スル事項

三、學生ノ集會及印刷物ニ關スル事項

四、學生ノ衛生及體格検査ニ關スル事項

五、學生ノ入退舍、外泊、入院、歸省及旅行ニ關スル事項

六、寄宿舍ノ取締及管理ニ關スル事項

七、寄宿舍ノ炊事及出入商人ニ關スル事項

八、非常事變ニ關スル事項

九、學生課ニ屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

十、學生課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

十一、其ノ他學生取締ニ關スル一切ノ事項

第十一條 圖書課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、圖書ノ出納及保管ニ關スル事項

二、圖書ノ貸出ニ關スル事項

三、書庫及閱覽室整理ニ關スル事項

四、圖書課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項

五、圖書課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

六、其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十二條 會計課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、歲入歲出ノ豫算及決算ニ關スル事項

二、物品ノ出納及保管ニ關スル事項

三、金錢ノ出納及保管ニ關スル事項

四、官有財産及資金ノ監理ニ關スル事項

五、校舎校地ノ營繕ニ關スル事項

六、不用品ノ處分ニ關スル事項

七、會計課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ物品ノ整理保管ニ關スル事項

八、其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

第十三條 教務課學生課及圖書課ハ教授中ヨリ特選セル各課長ヲシテ之ヲ管理

セシム

第十四條 庶務課及會計課ハ書記中ヨリ特選セル各課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第十五條 課員ハ課長ノ指揮ニ從ヒ該課ノ事務ニ從事ス

二、職員服務規程

第一條 新任者ハ著任ノ日ヨリ七日以内ニ履歷書及宿所届ヲ庶務課ニ印鑑届ヲ庶務課及會計課ニ差出スヘシ

第二條 職員住所ヲ移轉シ姓名印章ヲ變更セルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第三條 職員登校スルトキハ必ス先ツ出勤簿ニ捺印スヘシ

但シ教授待遇ノ講師ハ此ノ限ニ在ラヌ

第四條 職員出勤時限ニ遅刻スルカ又ハ執務時間中ニ退出セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ學校長ニ届出ツヘシ

第五條 職員病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ出勤時限前ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六條 職員喪ニ當リタルトキハ服忌届ヲ學校長ニ差出スヘシ

第七條 職員病氣其ノ他ノ事故ニ依リ任地ヲ離レントスルトキハ學校長ノ許可

ヲ受クヘシ但シ賜暇中ハ旅行日數及場所ヲ記シ届出ツヘシ

第八條 職員出張ヲ命セラレタルトキハ出發歸任共ニ學校長ニ届出ツヘシ

復命書ハ歸任後十日以内ニ學校長ニ差出スヘシ但シ場合ニ依リ口頭ヲ以テ復命書ニ代フルコトヲ得

第九條 職員官廳其ノ他ヨリ本校ヲ經由セスシテ直ニ辭令書ヲ受ケタル時其ノ事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ

三、校醫服務規程

第一條 校醫ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、學生ノ疾病治療ニ關スル事項

二、學生ノ身體検査ニ關スル事項

三、其ノ他學校衛生ニ關スル事項

第二條 校醫ハ休業日ヲ除ク外隔日服務スヘシ但シ急患者アルトキハ何時ニテ

モ出校シテ治療ヲ爲スヘシ

第三條 病氣其ノ他ノ事故アリテ出校シ難キトキハ相當ノ代人ヲ出校セシムル
コトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ氏名ヲ屈出ツヘシ

第四條 衛生上ノ施設ニ關シテハ學生課長ト協議スヘシ

第五條 校醫ハ毎月一回學校ヲ視察シ視察後一週間内ニ視察簿ヲ學生課ニ差出
スヘシ

第六條 校醫ハ學生病類月表及同年表ヲ調製シ月表ハ翌月五日年表ハ翌年度四月
月十五日迄ニ學生課ニ差出スヘシ

四、宿直規程

第一條 書記及事務雇員ハ交代ヲ以テ毎日一名宛本校ニ宿直勤務スヘシ
宿直勤務ノ順番ハ庶務課長之ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 宿直時間ハ退出時限ヨリ翌日ノ出勤時限マテトス但シ休業日ニ於テハ
出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス

宿直者ハ事務引繼ノ後ニ非サレハ勤務時限後ト雖モ學校ヲ離ルルコトヲ得
ス

第三條 宿直者ハ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ除番ス

一、出張中及出張ノ前後兩日

二、三日以上ノ缺勤中

三、賜暇又ハ忌引中

第四條 宿直者ニシテ宿直シ能ハサルトキハ協議ノ上他人ヲ代勤セシムルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨宿直日誌ニ記載スヘシ

第五條 新任者ハ出勤日ヨリ起算シ一週間ヲ經テ宿直順番ニ加入セシム

第六條 宿直者ハ宿直日誌ニ左ノ事項ヲ記載シ學校長ノ檢閲ヲ受クヘシ

一、宿直ノ年月日及宿直者ノ氏名

二、宿直ノ巡視及小使ノ氏名

三、接受發送シタル物件

四、其ノ他宿直中處理シタル事項

第七條 宿直中接授シタル電信親展公文書及速達ヲ要スト認ムヘキ職員宛ノ私文書ハ直チニ宛名ノ者ニ送付シ其ノ他ノ文書ハ翌日宿直日誌ト共ニ次番者若ハ庶務課員ニ引繼クヘシ

第八條 宿直者ハ校舎各室ノ鎖鑰ヲ監守シ火元戸締ニ注意シ夜中ハ巡視若ハ小使ヲ率ヒ二回以上校舎ノ内外ヲ巡視スヘシ

第九條 宿直中近火其ノ他非常ノ異變起ルトキハ學校長ニ急報シ且ツ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

五、物品會計規程細則

第一條 共用備品及消耗品ハ學校長ノ任命セル若干名ノ監守者若ハ取扱主任ヲシテ之ヲ處理セシム

第二條 物品ノ出納ハ學校長ノ檢印アル所定ノ傳票ニ依テ之ヲ行フ

第三條 通常所要ノ物品ハ會計課ニ於テ一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ許可

ヲ受ケ一回若ハ數回ニ取纏メテ之ヲ購入シ各部ノ請求ニ應シ交附ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 臨時所要ノ物品ハ各部主任ノ請求ニ依リ學校長ノ許可ヲ受ケテ其ノ都度購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ當該監守者又ハ取扱主任ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 生産保管轉換又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計課ニ於テ其ノ品名、數量及見積價格ヲ付シ物品會計官吏ヲシテ受入命令ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 總テ受入タル物品ハ備品ニアリテハ會計課ニ於テ校名番號ヲ附スヘシ但シ票札ノ附シ得サルモノハ適當ノ方法ニヨリテ之ヲ整理スヘシ

第七條 本校各部ニ於テ物品ノ支給ヲ要スル時ハ所定ノ請求書ニ品名、數量、需要事由等ヲ記載シ捺印ノ上之ヲ會計課ニ差出スヘシ

第八條 本校各部ニ於ケル實驗生産品ハ當該取扱主任ニ於テ生産品授受簿ニ其ノ品名、數量、評定價格及引繼年月日ヲ記載シ之ヲ會計課ニ引繼クヘシ

第九條 監守者又ハ取扱主任物品ノ支給ヲ受ケタルトキハ現品ト照合シテ所定ノ傳票ニ捺印シ遲滯ナク之ヲ物品會計官吏ニ返付スヘシ共用備品及消耗品

ニアリテハ之ヲ帳簿ニ記載シ且ツ共用備品ニアリテハ成ルヘク其ノ備付ノ場所ヲ摘記スヘシ

第十條 監守備品ノ票札汚損若ハ滅失シタルトキハ監守者ハ直チニ之ヲ會計課ニ通知スヘシ

第十一條 監守備品ニシテ自然ニ毀損シタルトキハ監守者ハ直チニ其ノ修理若ハ引換ヲ會計課ニ請求スヘシ前項物品ノ修理終リタルトキハ會計課ハ直チニ當該物品ヲ監守者ニ返付スヘシ

第十二條 監守備品滅失シタルトキハ監守者ハ其ノ品名、數量、番號等ヲ取調ヘ始末書ヲ附シ物品會計官吏ヲ經由シテ學校長ニ届出ツヘシ

第十三條 監守備品不用ニ歸シタルトキハ監守者ハ之ヲ會計課ニ返付スヘシ

第十四條 不用物品若ハ毀損物品ニシテ使用ニ堪ヘサルモノアル時ハ會計課ハ處分案ヲ附シテ學校長ノ裁定ヲ請フヘシ

第十五條 監守者交迭シタルトキハ新舊監守者立會ノ上帳簿ト現品トヲ照合シ引繼ヲ爲シタル年月日ヲ帳簿ニ記載シ署名捺印スヘシ前項ノ手續ヲ終リタ

ルトキハ新舊監守者連名ニテ物品會計官吏ヲ經由シテ其ノ旨學校長ニ届出ツヘシ

第十六條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏左ノ各項ニ依リテ之ヲ検査スヘシ

一、備品ハ毎年一回支給簿ト監守簿トヲ對照シ更ニ監守簿ト現品トヲ照合スヘシ

二、消耗品ハ各學期毎ニ一回消耗品受拂簿ヲ調査シ現品ト照合スヘシ

前二項検査中物品ノ滅失毀損ヲ發見シタルトキ又ハ物品ノ處理ニ付キ意見アルトキハ物品會計官吏ハ其ノ旨學校長ニ具申スヘシ

第十七條 物品檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二種トス

定期檢閲ハ毎年二月之ヲ行ヒ臨時檢閲ハ必要ト認メタル場合ニ之ヲ行フ

第十八條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシテ檢閲ノ都度學校長之ヲ任命ス

第十九條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ事項左ノ如シ

一、物品保管ノ適否

二、物品出納ノ適否

三、備品使用ノ適否

四、消耗品消費ノ適否

五、物品缺損ノ有無

第二十條 物品檢閲委員檢閲ヲ終リタルトキハ十日以内ニ檢閲顛末ヲ具シ意見

ヲ附シテ學校長ニ上申スヘシ

第二十一條 物品會計官吏ハ物品ノ出納ヲ明ニスル爲左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

一、圖書出納簿

本簿ニハ圖書名、冊數、價格、納人等ヲ登記シ出納ヲ明ニスヘシ

二、備品出納簿

本簿ニハ圖書、機械、標本以外ノ備品ノ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シ其ノ出納ヲ明ニスヘシ

三、機械、標本出納簿

本簿ニハ機械、標本ヲ學科毎ニ口座ヲ設ケ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シ其

ノ出納ヲ明ニスヘシ

四、生産品出納簿

本簿ニハ實習生産品ノ品名、數量、價格ヲ登記シテ出納ヲ明ニスヘシ

五、消耗品出納簿

本簿ニハ消耗品ノ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シテ其ノ出納ヲ明ニスヘシ

六、器具、機械、標本並圖書支給簿

本簿ニハ各部科ノ監守又ハ專用ニ屬スル物品ヲ記入シ以テ支給備品ノ所在ヲ明ニス

第二十二條 監守者又ハ物品取扱主任ニ於テハ各部物品ノ出納監守及取扱ヲ明

確ニスル爲左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

一、器具、機械、標本監守簿

本簿ニハ監守物品ノ品名、數量、番號及所在等ヲ明記スヘシ

二、圖書監守簿

本簿ニハ部門毎ニ口座ヲ設ケテ圖書名、冊數、價格等ヲ明記スヘシ

三、消耗品受拂簿

本簿ニハ消耗品(實驗用材料及生産品ヲ含ム)ノ品名、數量、受拂ノ年月日等ヲ明記スヘシ

四、郵便切手類受拂簿

本簿ハ庶務課ニ之ヲ備ヘ郵便切手ノ受拂ヲ明記スヘシ。

六、成績考查規程

第一條 學業ノ成績ハ學年成績及卒業成績ニ區別シテ之ヲ考查ス

第二條 各科目ノ學年成績ハ平素ノ成績及試験成績ニ依リテ之ヲ定ム

平素ノ成績ト試験成績トノ評價ハ擔任教官任意之ヲ定ム

第三條 試験ハ學年試験及臨時試験ノ二トナス

第四條 學年試験ハ該學年中ニ修了シタル課程ノ全部ニ付キ之ヲ行ヒ臨時試験

ハ其ノ一部ニ付キ之ヲ行フ

第五條 學年試験ハ學年末ノ指定日ニ於テ之ヲ行フ但シ學年ノ中途ニ於テ修了

スル科目ハ該學期末ニ之ヲ行フ

前項ノ時期ニ於テ學年試驗ヲ行ヒ難キトキハ擔任教官ノ見込ニ依リ該學年中適當ノ時期ニ於テ之ヲ行フ

臨時試驗ハ二學期以上ニ亘レル科目ニ付一回以上臨時之ヲ行フ

第六條 學年試驗ハ修身、數學、測量、機械設計、製圖、外國語、體操及實習實驗科目ニ限リ擔任教官ノ見込ニヨリ省略スルコトヲ得

臨時試驗ハ平素ノ成績アル科目ニ限リ擔任教官ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條 學年成績ハ養蠶科ニ在リテハ蠶兒飼育ヲ二、製絲科ニ在リテハ製絲ヲ二ニ評價シ其ノ他ノ科目ヲ一ニ評價シテ之ヲ定ム

第八條 卒業成績ハ三學年ノ成績ヲ加ヘ之ヲ三分シタルモノトス

第九條 成績ハ點數ヲ以テ表示シ各科目ノ最高點ヲ一百點トス

但シ追試驗ヲ行ヒタル科目ノ最高點ハ八十點トス

第十條 各科目ノ點數學年成績及卒業成績ハ一點未満ヲ四捨五入ス

第十一條 左ノ各號ニ該當スルモノヲ以テ各學年ノ課程ヲ修了シタルモノトス

一、學科目及實習課目ノ學年成績平均點各六十點以上ナルトキ

二、科目學年成績各五十點以上ナルトキ

三、學年成績六十點未滿ノ科目總數ノ半數以上ニ上ラサルコト

第十二條 學業成績前條ニ合格セサル者ト雖モ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ敎官會議ヲ經テ其ノ學業成績ヲ審案シ特ニ該學年ノ課程ヲ修了シタル者ト認ムルコトアルヘシ

一、前條第一號及第二號ノ資格ヲ具備セル者

二、前條第一號及第三號ノ資格ヲ具備シ五十點未滿四十點以上ノ科目二科目以內ナル者

七、學生心得

第一條 本校學生ハ敎育勅語及戊申詔書ノ趣旨ヲ奉體シ以テ立身報國ノ基礎ヲ確立スヘシ

第二條 本校學生ハ左記ノ綱領ヲ遵守スヘシ

一、本校ノ規則命令ヲ遵守シ師長ノ指揮訓戒ニ恭順スヘシ

二、信義ヲ重シ廉恥ヲ尙ヒ質素勤勉ヲ旨トシ以テ謹恪自重ノ風ヲ持スヘシ

三、職員ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ厚クスヘシ

四、攝生ニ注意シ身體ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養フヘシ

五、志操ヲ固クシ言行ヲ慎ミ苟クモ本校ノ學生タルノ體面ヲ汚スノ行爲アルヘカラス

第三條 本校學生ハ左記ノ各號ヲ遵守スヘシ

一、揭示ハ之ヲ掲ケシ日ヨリ一般ニ了知セルモノト認ムルニ依リ能ク注意スヘシ

二、始業時限ニハ遲滯ナク教室ニ入りテ所定ノ席ニ著キ授業終ルトキハ教

官退席後靜ニ退出スヘシ

三、授業ノ始ニハ教官教壇ニ昇リ机ニ向ヒシトキ授業ノ終ニハ教官ヨリ授業ノ終ル旨ヲ告ケシトキ一同教官ニ對シ立禮スヘシ

四、授業中參觀人ニ對シ敬禮ノ爲教官教壇ヲ降リタルトキハ一同直ニ立禮スヘシ

五、授業時間中ハ教官ノ許可ナクシテ教室ヲ出入スルコトヲ得ス

六、校舎内ニアリテハ授業中ハ勿論放課後ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス

七、帽子外套其ノ他ノ携帶品ハ必ス所定ノ場所ニ整置シ、教室内ニ携帶スヘカラス

病氣其ノ他ノ事故ノ爲著用ノ必要アルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

八、校内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス

九、團體ヲ組織セント欲セハ必ス生徒監ノ認可ヲ受クヘシ

十、集會ニ於テハ左ノ各項ニ從フヘシ

イ、校舎ノ内外ヲ問ハス集會セントスルトキハ豫メ學生課ニ届出ツヘシ
ロ、集會ノ爲メ校舎校具ヲ借用セントスルトキハ豫メ學生課ノ許可ヲ受
クヘシ

十一、學生課ノ許可ヲ得ルニ非サレハ校舎内ニ揭示張札ヲ爲スコトヲ得ス
十二、本校ノ物品ハ當該物品監守者ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用帶出ス
ルコトヲ得ス

十三、本校ノ物品ハ専ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過チテ毀損若ハ紛失シタ
ルトキハ直ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

八、總代規程

第一條 各科各級ニ總代及副總代各一名ヲ置ク

第二條 總代ハ各級學生ヲ代表シ學校ト學生及各級學生間ノ關係ノ圓滑ヲ圖リ
兼テ級風ノ振作ニ勉ムヘシ

副總代ハ總代ヲ補佐シ總代故障アルトキハ之ヲ代理ス

第四條 各級學生ハ各學期ノ始三日以内ニ總代及副總代ノ候補者三名ヲ連記投

票ニヨリテ互選シ遲滯ナク教務課ニ申告スヘシ

候補者ハ出席學生三分ノ一以上ノ得點アルコトヲ要ス

第五條 總代及副總代ハ各級學生ノ互選セル三名ノ候補者中ニ就キ學校長之ヲ

任命ス

第六條 總代及副總代ノ任期ハ一學期間トス

九、學生制服規程

第一條 學生ノ制服ハ左ノ如シ

一、正帽 地質 黑絨

徽章 眞鍮製形狀圖ノ如シ

緣 黑綾織

眼底 黑革

願紐 黑革幅三分五厘、釦徑三分三厘、形狀服釦ニ同シ

一、

略帽

製式 圖ノ如シ

地質 麥藁

徽章 正帽ノ徽章ニ同シ

帶布 黒無地

製式 普通編方平編

一、

正服衣

地質 黒ヘル、黒羅紗又ハ黒一本綾

釦 眞鍮製、胸釦七分五個、袖釦五分二個、形狀圖ノ如シ

襟章 眞鍮製、左襟ニ養蠶科生ハ桑葉、製絲科生ハ左襟ニ絲柞、

絹絲紡績科生ハ左襟ニ「フライヤー」ノ章ヲ附ス

製式 立襟ハ脊廣形圖ノ如シ

袴

地質 正服、衣ト同シ

製式 圖ノ如シ

一、

略服

地質霜降セル

其ノ他正服ニ同シ

一、外套 地質 黒地又ハ黒味勝ノ質素ノ地質ヲ選ヒ學生ノ分度ニ適當ス

ルモノタルヲ要ス

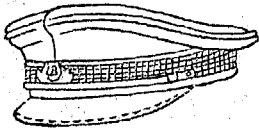
釦 一列隠釦

製式 折襟圖ノ如シ

一、靴 黒革製

一、脚絆 卷脚絆(カーキ色)

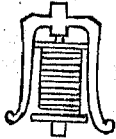
帽子



襟章



養蠶科



絹絲紡績科

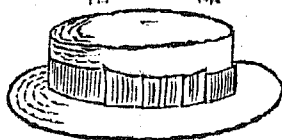


製絲科

章 徽

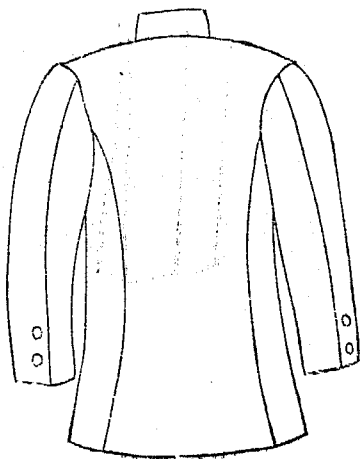


帽 略



背

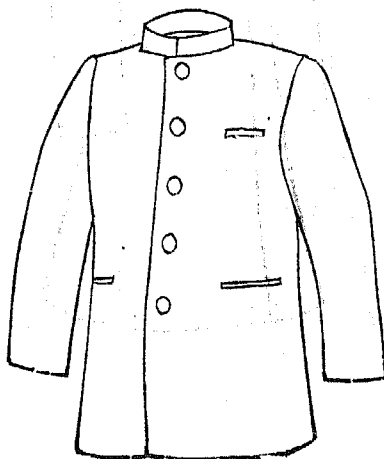
面



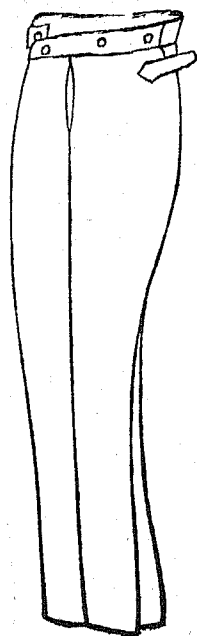
衣

前

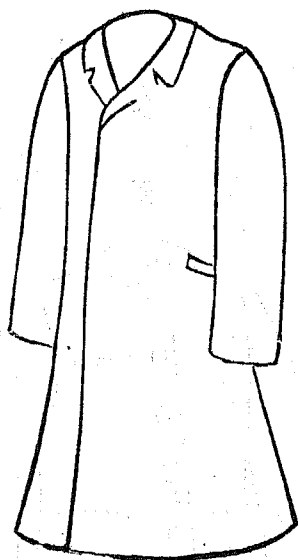
面



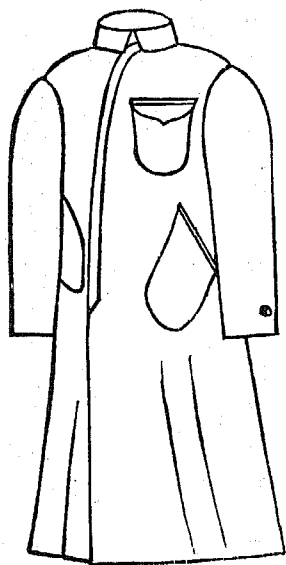
袴



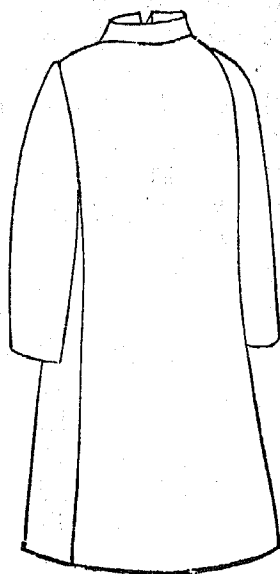
外套ノ前面



製絲科
實習服



外套ノ背面



第二條 學生ハ左ノ場合ニ於テハ制服ヲ著用スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アル

者ハ生徒監ノ許可ヲ得テ和服ヲ著用スルコトヲ得

一、 授業ニ出席スルトキ

二、 本校學生タルコトヲ表示スルトキ

三、 特ニ本校ヨリ指定スルトキ

第三條 學生ハ六月一日ヨリ九月三十日マテハ特ニ指定シタル場合ノ外略服ヲ

著用スヘシ但シ第一學年生ハ五月一日ヨリ之ヲ著用スルコトヲ得

第四條 學生ハ前條ノ期間内ニ限り略帽ヲ著用スルコトヲ得但シ體操、儀式其ノ

他特別ノ指定アルトキハ此ノ限りニアラス

第五條 學生ハ實習ノ場合ニ於テハ左ノ如キ實習服ヲ著用スヘシ

一、 衣 養蠶科 地質 霜降小倉

袴 同 地質 衣ニ同シ

一、 衣 製絲科 地質 白カツラギ

製式 圖ノ如シ 袴ナシ

一、衣 絹絲紡績科 地質 黒木綿

袴 同 地質 衣ニ同シ

第六條 學生外出スルトキハ制服又ハ制帽及袴ヲ著用スヘシ

第七條 新入學生ハ五月一日マテニ制服ヲ調製著用スヘシ

第八條 研究生及選科生ノ服裝ハ別ニ之ヲ定メス但シ學生タルノ禮ヲ失ハサル

コトヲ要ス

選科生ニシテ正服又ハ略服ヲ著用スルトキハ襟章ヲ省略スヘシ

十、寄宿舎規程

第一條 本校ハ校風ヲ振肅シ兼ネテ學生ノ心身修養ヲ補クル爲メニ寄宿舎ヲ設
ク其ノ綱領左ノ如シ

一、至誠ヲ旨トスヘシ

一、勤勞ヲ尙フヘシ

一、自治ヲ重スヘシ

一、禮節ヲ守ルヘシ

第二條 本校學生ハ總テ寄宿舎ニ收容ス

但シ學校長ニ於テ通學ヲ必要ト認メタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 寄宿生ハ生徒監ノ指揮命令及ヒ寄宿舎役員ノ指揮ニ從ヒ本校學生タルノ本分ヲ全フセンコトヲ務ムヘシ

第四條 寄宿生ノ起床、洒掃、食事、自修、外出、消燈ノ時限ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 寄宿生臨時ニ外泊又ハ歸省セントスルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘタル願書ヲ生徒監ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 寄宿生舎内ニ於テ治療シ難キ疾病ニ罹リタルトキハ期間ヲ定メ外泊ヲ命ス

第七條 寄宿生ハ在舎中寄宿料トシテ毎月金壹圓ヲ指定ノ期日ニ會計課ヘ納付スヘシ但シ休暇中及歸省外泊ノ爲全月在舎セサルトキハ該月ノ寄宿料ヲ免除ス

第八條 寄宿生ハ食費及ヒ舍費ヲ指定ノ期日ニ納付スヘシ

第九條 本規程施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

十一、寄宿舍細則

第一節 編制及役員

第一條 寄宿舍ハ之ヲ寮ニ分チ各寮ヲ室ニ分ツ

第二條 各室人員ノ配當ハ每學年ノ始ニ於テ生徒監之ヲ定ム

第三條 各室ニ室長及ヒ副室長各壹名ヲ置キ室員ノ互選ニヨリテ之ヲ定メ其ノ任期ヲ壹學期間トス

副室長ハ室長ヲ補佐シ室長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第四條 各寮ニ寮長及ヒ副寮長各壹名ヲ置ク其ノ任期ヲ一學期間トス

寮長及ヒ副寮長ハ各寮學生ヨリ候補者ヲ互選セシノ其ノ中ニ就キ學校長之ヲ任命ス

第二節 役員ノ任務

第五條 寮長及ヒ室長ハ協議會ヲ組織シ生徒監ノ指揮命令及ヒ監督ヲ承ケ寄宿

舍規程第壹條ノ趣旨ノ貫徹ヲ圖ルヘシ

副寮長ハ寮長ヲ補佐シ寮長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第六條 協議會ノ議事ハ寮長之ヲ整理ス

第七條 協議會ハ每學期一回之ヲ開ク但シ必要アルトキハ生徒監ノ許可ヲ受ケ

臨時開會スルコトヲ得

第八條 協議會ノ議決ハ生徒監ノ認可ヲ得テ之ヲ實施スヘシ

第九條 室長ノ任務要項左ノ如シ

- 一、室内ノ風紀振肅ヲ圖ルコト
- 一、室内ノ清潔整頓ヲ圖ルコト
- 一、諸達命令ヲ傳達シ之ヲ實施ノ責ニ任スルコト
- 一、室内勤務ヲ指導監督スルコト
- 一、定例大掃除ノ後生徒監及ヒ校醫ノ檢閲ヲ受クルコト
- 一、室内ノ諸備品及ヒ臨時外泊學生ノ所有品ヲ保管スルコト
- 一、室員病氣ノトキ看護ノ手配ヲナスコト

第十條 寮長ノ任務要項左ノ如シ

- 一、破損ノ箇所又ハ物品ノ修理手續ヲナスコト
- 一、火ノ元及ヒ戸締ニ注意スルコト
- 一、室員ノ願届書類ニ關スルコト
- 一、其ノ他室内ニ於ケル臨時ノ諸件ヲ處理スルコト
- 一、寮内全般ノ風儀紀律ノ振肅ヲ圖ルコト
- 一、寮内各部ノ清潔整頓衛生ニ注意スルコト
- 一、諸達命令ヲ各室長ニ傳達シ其ノ實施ヲ取締ルコト
- 一、寮内ノ出來事及ヒ寄宿舎ニ關スル意見ヲ生徒監ニ申告スルコト
- 一、出入商人ヲ取締ルコト
- 一、火ノ元及ヒ戸締ニ注意スルコト
- 一、寮内日誌ヲ擔當シ日々重要事項ヲ記錄スルコト
- 一、其ノ他寮内ニ關スル事項

第三節 日課心得

第十一條 寄宿舎ノ日課時限ハ振鈴(若ハ喇叭)ヲ以テ之ヲ報ス日課時限ハ季節又

ハ本校實習ノ都合ニヨリ生徒監之ヲ定ム

第十二條 每朝室内ヲ掃除シ又毎月二回室員全体ニテ大掃除ヲ行ヒ室ノ内外ヲ

洒掃整頓スヘシ

第十三條 外出時間ハ授業時間及ヒ特ニ在舎ヲ命シタル場合ノ外朝食後ヨリ午

後十時マテトス

己ムヲ得サル事故ニ依リテ歸舎時限ニ後レタル者ハ其ノ事由ヲ證明スヘキ
書類ヲ生徒監ニ差出シ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 人員検査ハ臨時之ヲ行フ

第十五條 出入ハ必ス本校正門ヨリナシ其ノ都度各自ノ名札ヲ表裏スヘシ

第十六條 左ノ場合ニハ願書ヲ差出シ許否ヲ待ツヘシ

一、寄宿舎規程第六條ニ依リ歸省若ハ外泊セントスルトキ(學校長宛)

一、規定時間外ニ臨時外出セントスルトキ(生徒監宛)

一、學友ノ病氣看護ノタメ缺課セントスルトキ(學校長宛)

第十七條 左ノ場合ニハ届書ヲ差出スヘシ

一、忌服ヲ受クルトキ(學校長宛)

一、病氣ノタメ缺課(學校長宛)若ハ就褥セントスルトキ(生徒監宛)

一、歸省若ハ外泊先ヨリ歸舍シタルトキ(生徒監宛)

一、金錢物品ノ紛失シタルトキ(時日、員數、生徒監宛)

第十八條 疾病ニ罹リタルトキハ本人又ハ室長ヨリ生徒監ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第十九條 來訪者ニ面會スルニハ應接所ニ於テスヘシ但シ疾病ノ爲生徒監ヨリ病室ニ於ケル面會ヲ許可セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第二十條 寄宿舍内ハ土足ノ儘昇降スルコトヲ得ス

第二十一條 火ノ元ニ關シテハ各自相誠シムヘシ

煙草ノ吸殻ハ必ツ火鉢ニ棄ツヘシ

第二十二條 寄宿生ニ到達スル郵便物ハ總テ生徒監ヲ經由スルモノトス

第四節 炊 事

第二十三條 炊事ハ自炊ノ方法ニ據ル

第二十四條 炊事ニ委員長及ヒ副委員長各壹名委員若干名ヲ置ク

第二十五條 炊事委員長ハ生徒監ノ指揮監督ヲ承ケ炊事全般ノ取締ニ任ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第二十六條 炊事委員ハ委員長ノ指揮ニ從ヒ炊事ニ關スル事務ヲ處理ス

第二十七條 正副委員長ハ上級生ヨリ候補者ヲ互選セシメ學校長之ヲ任命ス

炊事委員ハ次級生輪番ニ之ニ當ル

第二十八條 正副委員長ハ毎年四月及ヒ十月ノ初ニ於テ改任スルモノトス

委員ノ任期ハ一箇月トス

第二十九條 委員ノ任務要項左ノ如シ

一、每週獻立豫定表ヲ調製スルコト

一、炊事需用品ヲ購入スルコト

一、購入物資ノ受拂ヲ整理スルコト

一、月末決算報告書ヲ作製スルコト

一、日々配膳明細簿ヲ整理スルコト

第三十條 委員長ノ任務要項左ノ如シ

一、生徒監ノ指揮ヲ受ケ炊事ヲ總理シ及ヒ所屬員ヲ監督シ生徒監ノ報告及ヒ命令ヲ傳達スルコト

一、食物、食器、食堂、炊事場及ヒ浴場、洗面場等内外ノ清潔衛生ニ關シテ必要ナル注意ヲナスコト

一、獻立豫定表ヲ審査シ生徒監ノ許可ヲ得ルコト

一、購入物資ヲ取締リ隨時檢査ヲナスコト

一、炊夫並ニ出入商人ノ風紀衛生ヲ取締ルコト

一、毎月炊事決算報告書ヲ精査シ之ヲ生徒監ニ差出スコト

第三十一條 生徒監ハ炊事ノ事務ヲ補クルタメ炊事係ヲ備入ルコトヲ得

第三十二條 食費ハ總テ日割ニテ計算シ、欠食二日以上ニアラサレハ食費ヲ控除

セス

但シ欠食セントスル者ハ豫メ委員ニ届出ツヘシ

第三十三條 炊事委員ノ整理保管スヘキ帳簿及書類左ノ如シ

- 一、物品購入簿、通帳
- 一、購入物品仕譯簿
- 一、日々配膳明細簿
- 一、飯米日計簿
- 一、缺食申込簿
- 一、炊事月末決算報告簿
- 一、其他必要書類

第三十四條 炊事ニ就キ意見アル者ハ委員長ニ申出ツヘシ

第五節 會計

第三十五條 會計ニ委員長及ヒ副委員長各壹名委員若干名ヲ置ク

第三十六條 委員長ハ生徒監ノ指揮監督ヲ承ケ寄宿舎ノ會計ニ關スル全般ノ事

務ヲ統理ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ會計事務ヲ處理ス

第三十七條 正副委員長ハ上級學生中ヨリ候補者ヲ互選セシメ學校長之ヲ任命

ス正副委員長ノ任期ハ壹學期間トス

委員ハ次級學生毎月十五日ヨリ翌月十五日マテ輪番ニ之ニ當ル

第三十八條 委員長ハ每月末日マテニ食費舍費ヲ徵收シ翌月初旬ニ於テ支拂ヲ

ナスヘシ

但シ特ニ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 會計ニ於テ整理保管スヘキ帳簿及ヒ書類左ノ如シ

一、食費舍費領收簿

一、炊事費舍費支拂簿

一、傭人料支給簿

一、現金出納簿

一、受取書類其ノ他必要ナル書類

十二、通學規程

第一條 通學生ハ宿所選定ノ日ヨリ五日以内ニ宿所届ヲ學生課ニ差出スヘシ宿所變更ノ場合亦同シ

第二條 通學生ハ本校支給ノ標札ニ姓名ヲ記載シテ宿所ノ門戸ニ掲クヘシ

第三條 通學生ハ本校職員又ハ本校學生一名以上ト同宿スヘシ但シ父兄其ノ他ノ尊屬ノ宿所ヨリ通學スル者又止ムヲ得サル事情アル者ハ此限りニアラス

第四條 通學生ノ宿所ニシテ不適當ナリト認ムルトキハ日ヲ限リテ之ヲ變更セシム

第五條 本校ノ學籍ヲ脱シタルトキ又ハ休學停學ニ依リ一時宿所ヲ離ル、トキハ直ニ標札ヲ學生課ニ返付スヘシ

第六條 通學生ニシテ旅行、外泊又ハ歸省一週間以上ニ亘ルトキハ其ノ事由ヲ具シテ豫メ學生課へ届出ツヘシ

十三、授業料規程

第一條 授業料ハ左ノ期間内ニ之ヲ徴收ス

第一期 四月十八日ヨリ同月二十一日マテ

第二期 九月二十一日ヨリ同月二十四日マテ

第三期 一月二十一日ヨリ同月二十四日マテ

第二條 本校規則第四十條第一號第二號及第三號ノ一ニ該當スルモノハ事項發生ノ日ヨリ七日以内ニ該期ノ授業料ヲ納付スヘシ

第三條 退學又ハ放校ノ處分ヲ受ケタル者ノ授業料ハ納期ニ拘ラス即時徴收ス

第四條 授業料ノ怠納三日以上ニ及フ者ハ授業ニ出席スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 實習實驗費ヲ徴收スルトキハ特ニ其ノ金額及徴收日ヲ告示ス

實習實驗費ニ關シテハ授業料ノ規程ヲ準用ス

十四、傭人規程

第一條 傭人ハ庶務課監督ノ下ニ各所屬長官並上司ノ指揮ヲ受ケ職務ニ従事ス

ヘシ

第二條 傭人出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ捺印セサル者ハ缺勤者

ト看倣ス

第三條 傭人ノ勤務時間ハ午前七時三十分ヨリ午後五時迄トス

但シ公務繁劇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四條 傭人病氣其ノ他己ムヲ得サル事故ニヨリ缺勤セムトスル時ハ其ノ旨時

限前ニ届出ツヘシ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘ

シ

第五條 傭人ハ通勤並ニ勤務中制服アル者ハ之ヲ着用シ容儀ヲ正シクシ禮節ヲ

重シ人ニ接スルニ丁寧親切ヲ旨トスヘシ

第六條 傭人ハ上田市内ニ居住スル確實ノ身元引受人アルコトヲ要ス

第七條 傭人住所ヲ移轉シ姓名印章ヲ變更シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第八條 傭人ハ最モ嚴密ニ火ノ取扱ニ注意シ苟モ粗漏ノ行爲アルヘカラス

第九條 傭人ハ校舎器具、機械、材料等ヲ鄭重ニ取扱ヒ之ヲ滅失毀損セサル様注意

スヘシ

第十條 傭人ハ非常若クハ近火ニ際シテハ非番者ト雖モ直チニ出校シ係員ノ指

揮ニ從フヘシ

第十一條 傭人ハ所屬長官ノ許可アリタル場合ノ外他人ノ委囑ニ應スルコトヲ得ス

第十二條 傭人校内ニ於テ遺失物ヲ拾得シタルトキハ直ニ庶務課員又ハ宿直員ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 傭人ニシテ規則命令ヲ遵守セス又ハ職務ニ怠慢ナル者ハ其ノ情狀ニ依リ譴責減給又ハ解傭ニ處ス

第十四條 傭人服務細則ハ別ニ之ヲ定ム

十五、非常手配規程

第一條 本校出火若ハ近火等事變ノ際ハ巡視又ハ小使其ノ他之ヲ發見シタルモノヨリ執務時間内ハ學校長及各科ニ其ノ他ハ當直員ニ急報スヘシ

第二條 課員又ハ當直員ニシテ前條ノ報ニ接シタルトキハ 御眞影並ニ勅語ノ

奉安其ノ他應急ニ手配ヲ爲シ且ツ當直員ハ之ヲ學校長及各課員ニ急報スシ

御眞影並ニ勅語ノ奉安所ハ小縣蠶業學校若ハ神宮奉齋會上田本部トス

第三條 事變ノ性質多人數ヲ要スト認ムルトキハ巡視又ハ火夫ヲシテ警鐘ヲ三

ツ宛連打セシメ又ハ汽笛ヲ連鳴セシム

第四條 前條ノ警報ニ接シタルトキハ職員學生以下諸傭人ハ直チニ本校ニ集合

シ豫定ノ任ニ當ルヘシ但シ學生ハ必ス正帽ヲ着用スヘシ

第五條 職員學生以下諸傭人ノ非常手配ハ毎年四月學生課ニ於テ之ヲ定ム但シ

職員ノ配置ハ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 非常手配ヲ警戒掛、防火掛及運搬掛ノ三掛ト爲ス

第七條 警戒掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校門ヲ監守シテ無用ノ者ヲ入ラシメサルコト

二、終始校内ヲ巡邏シテ盜難ヲ戒ムルコト

三、駈付人名ヲ書留ルコト

四、夜中ニアリテハ表門其ノ他ノ要所ニ高張提灯ヲ點スルコト

第八條 防火掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校内出火ノトキハ備付ノ消火器及唧筒ヲ使用シテ消防ヲ爲スコト

二、近火ノトキハ唧筒ヲ引キ出シテ延焼ノ豫防ヲナスコト

三、其ノ他防火ニ必要ナル事項

第九條 運搬掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校舍焼失ノ虞アルトキハ校内ノ圖書機械其ノ他ノ物品ヲ安全ノ場所ニ

運搬スルコト

二、運搬セル物品ニハ監視者ヲ附シテ嚴重ニ取締ルコト

第十條 非常手配掛員ハ各掛長ノ指揮ニ從ヒ各掛長ハ學校長ノ指揮ニ從フヘシ

但シ掛長駈付ケサル間ハ上席者ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條 各學期ニ三回學生ヲシテ唧筒及消火器使用ノ練習ヲナサシム但シ第

三條ノ警報ヲ爲シテ臨時之ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第十二條 防火用具ハ學生課長ヲシテ之ヲ保管セシム

學生課長ハ時々防火用具ヲ點檢シ時機ニ應シテ使用シ得ル様整頓シ置クヘシ

十六、參觀規程

第一條 本校ハ休業日ヲ除クノ外參觀ヲ許可ス

但シ學校ノ都合ニ依リ之ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二條 參觀時間ハ午前九時ヨリ午後四時マテトス

但シ受付ハ午後三時マテトス

第三條 職員室、教官實驗室、圖書室、機械室、藥品室、試驗室、貯藏庫、原動力室、授業中ノ

普通教室、理化學教室及理化學實驗室ハ參觀ヲ謝絶ス

第四條 雨天ノトキハ廊下ノ連絡ナキ校舎ノ參觀ヲ謝絶ス

第五條 前四條ノ規程ハ特別ノ事情アル者ニ之ヲ適用セス

第六條 參觀人ハ教務課員ノ指揮ニ從フヘシ

但シ職員自ラ案内スル場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 學生ハ實習ノ爲説明ヲ課セラレタル場合ノ外參觀人ノ案内ヲ爲スコト

ヲ得ス

但シ學生ト特別ノ關係ヲ有スル參觀人ニ對シテハ授業ヲ缺席セサル限り特ニ教務課ノ許可ヲ得テ案内ヲ爲スコトヲ得

第六職員

(大正九年六月十五日調)

校長

倫理

從四位勳三等
農學士

針塚長太郎

教授

蠶桑論

(兼) 長野縣技師正五位勳四等
農學博士、農學士

三吉米熊

法制及經濟學
簿記、商業通論

教務課長
從五位
法學士

阿形輝司

生理化學、纖維學、同實驗、工業化學

從五位
農學博士、農學士

井上柳梧

職員

製絲學、工場管理論、製絲實習

英語、佛蘭西語

圖書課長

化學、同實驗、土壤學及肥料學、工業化學

正 農學博士
六 農學士

和田仙太郎

乾燥論、機械設計、機械工學、同實習、製圖

正 工學士
六 工學士

大瀧照太郎

絹絲紡績論、機械工學、紡績實習

正 工學士
六 工學士

石倉新十郎

蠶體解剖及蠶體生理學、昆蟲學、蠶體解剖、動物學、同實驗

豫備陸軍歩兵伍長
從六位 農學士

北島 鉞雄

農學、植物學、桑樹論、植物實驗、圃場實習

正 農學士
七 農學士

遠藤保太郎

農蠶業經營學、製絲業經營學、生絲貿易論、英語

正 農學士
七 農學士

早川直瀬

微生物學、蠶體病理學、同實驗、顯微鏡使用法、獨逸語

正 農學士
七 農學士

佐藤利一

數學、物理學、氣象學、物理實驗

生徒監

從七位

原田親雄

養蠶學、蠶業汎論、遺傳學

從七位

佐藤春太郎

應用力學、機械工學、數學

從七位

新樂顯理

助教 授

體操

學生課長
事務取扱

早野清三郎

桑樹論、圃場實習、蠶兒飼育

宮嶋徳一郎

撚絲及機織論、撚絲實習、機織實習、色染論、色染實驗、綿絲紡績論、圖案

清水寛孝

蠶兒飼育

松村季美

製絲原料論、乾燥論、屑物整理論、屑物整理、繭檢查

陸軍歩兵少尉
正八位

林貞三

絹絲紡績論、同實習

森山二郎

講師
(囑託日附順)

工場衛生

醫學士

田中清

養蠶學、蠶種學、蠶種檢查、蠶兒飼育

高橋清七

化學實驗

岩岡末彦

遺傳學(臨時囑託)

陸軍歩兵少尉
從五位農學博士

田中義麿

製絲論、生絲整理及檢查論、同實習(臨時囑託)

從七位

藤崎卓爾

精練漂白論

正七位
農學士

古谷榮藏

化學實驗

書記

須田圭二

會計課

會計課長

池田松太郎

會計課兼庶務課

新嶋藤作

庶務課

庶務課長 勳七等

小澤綱吉

圖書課兼庶務課

都筑貞吉

會計課

金井喜右衛門

雇

庶務課兼教務課

荒木紀僕

會計課

勳七等功七級

和田主計

教務課兼庶務課

勳七等

竹下文英

寄宿舍

小林兼作

製絲實習部

飯島寛

技術雇員
(助手)

養蠶實習	養蠶實習	圃場實習	養蠶實習	圃場實習	養蠶實習	化學實驗	化學實驗	製絲實習	製絲實習	機織實習	製絲實習
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

職員

武井克巳	古東幹太	樋口琢磨	工藤與四郎	岩崎喜三郎	小見益男	平澤勝	齋藤格次	浦野常三郎	內藤榮吉	目崎三郎	小林清丸
------	------	------	-------	-------	------	-----	------	-------	------	------	------

製 絲 實 習	製 絲 實 習	製 絲 實 習	製 絲 實 習	動 物 實 驗	物 理 實 驗	病 理 實 驗	經 濟	製 絲 實 習	養 蠶 實 習	養 蠶 實 習	化 學 實 驗	製 絲 實 習
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	--------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

教

婦(雇)

久 保 倭 文	森 澤 桑 子	長 峯 や ゑ	松 岡 ア イ	松 浦 清	小 島 貞	佐 藤 秀 一	春 原 良 太 郎	伊 藤 照	上 林 多 兵 恵	山 本 岩 三 郎	倉 原 茂	申 田 勝 衛
------------------	------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-----------------------	-------------	------------------

製絲實習
製絲實習
製絲實習

校醫

名譽柔道師範

劔道師範

柔道師範

職員

醫學士 田中清

市村じやう
山邊いち
川上連

飯塚國三郎

早野清三郎

星野喜三郎

嘱託

東京高等工業學校教授兼文部省督學官
正五位勳五等理學博士理學士

吉武榮之進

体操

陸軍歩兵大尉
正六位勳五等功五級

小澤德壽

第七學級生

一、學生氏名

中、農、農林、師、工、出身學校

養蠶科 第一學年 二三

門田秀太郎	中	山形	中村由枝	中	愛知
古川俊之	農林岐阜	尾藤省三	中	愛知	
服部正一	中	菅野三郎	中	福島	
山本三六郎	蠶	北澤周一	中	長野	
小澤周一郎	中	川嶋熊太郎	中	茨城	
竹村中和	中	伊藤喜代	中	三重	

小口一枝中	越智岩平中	竹內虎夫中	九川一太郎中	門平潤一郎農	川村吉太郎農	西山市三中	佐藤彰二中	養蠶科	是枝良德中	八卷喜二郎中	猪瀬親二中	萩原幸胤中	米田俊雄中
中山形	愛媛	千葉	山形	埼玉	滋賀	群馬	長野	第二學年	鹿兒島	宮城	栃木	山梨	兵庫
萬石安太郎中	後藤仙彌農	佐藤道中	清水清中	金崎真英農	鈴木貞治農	柴田末治中	勝又藤夫農	三五	櫻林幸雄中	母袋良平中	上村孝中	村瀬小十郎蠶	雨宮章中
巖手	山形	宮城	愛知	滋賀	山形	愛知	靜岡		山梨	長野	新潟	岐阜	山梨

大	小	佐	原	田	中	安	倉	原	三	小	永	坂
高	松	藤	清	口	島	仲	持	田	好	林	田	田
雄	茂	愛	志	富	文	勳	高	種	圭	繁	平	正
三	久	之	中	五	雄	中	之	龜	一	蠶	中	贊
中	中	中	中	郎	中	中	助	中	中	科	中	中
靜	高	長	長	茨	熊	福	茨	東	佐	第三學年	長	山
岡	知	野	野	城	本	岡	城	京	賀	一九	野	口
四	大	柏	岸	安	佐	戶	中	荻		細	岩	久
方	池	倉	善	島	藤	村	川	野		川	瀬	保
定		豐	亮	義	重	吉	三	上		護	義	善
雄	彰	吉	中	久	太	郎	郎	風		中	夫	之
中	中	農	農	中	中	中	中	中		中	中	助
京	長	山	山	茨	愛	宮	三	新		青	愛	香
都	野	形	形	城	知	城	重	湯		森	知	川

依田寬之介	井原邦雄	牧野春雄	竹內健二	井川清	住吉忠平	荻野轍	堀場友市	齋藤鳳一	柴田汎一	中島茂司	日野光平	三輪杉門
中	山林	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
靜岡	長野	兵庫	長野	岐阜	德島	京都	愛知	茨城	栃木	群馬	群馬	山口
山岸寅雄	恒川芳保	清水重雄	馬場政友	前田益藏	倉橋琢而	仲內靜	根岸丑之助	桑田庄七	宮崎清治	二木猪一	吉川孟文	
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
長野	愛知	福島	長野	鳥取	岡山	茨城	群馬	廣島	愛媛	長野	長野	

製絲科 第一學年 二四

高山隊爾	中山廣島	石濱正巳	中山茨城
野村又次	中山長野	栗栖忠士	中山廣島
春原三夫	中山長野	廣田雅夫	蠶廣島
新庄哲二郎	蠶香川	林直助	中山長野
川船卓爾	中山長野	塚田卯平	中山新潟
高嶋正巳	中山長野	清永巖	中山大分
谷口稔	中山和歌山		
製絲科 第二學年 二二			
田中定男	中山長野	湯澤重敬	農長野
黑岩覺	蠶長野	田村齊	中山岡山
日開豬澤	中山德島	酒井利夫	中山愛知
南澤清	蠶長野	島倉督造	農山形
蒲生勇一	中山福島	村山晉	中山長野
田中秀吉	中山愛知	竹内勇	中山長野

園田駒吉	富田庄三郎	富田乙松	岩崎登	柳原春彦	堀田啓咨	鈴木教吾	兒玉慶次	渡邊隆平	甘利俊吾	堀忠太郎	堤玄	大島武治
中	農林	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
大分	三重	山口	長野	愛知	鳥取	福島	愛知	靜岡	長野	福島	大分	埼玉
鈴木武造	稻井彌市	荻野俊一	加藤善一	好士泰造	清水輝雄	奧村好一	大塚重藏	津留稔	黑田誠一郎	小山茂一郎	眞崎幸一	仁科正美
中	農	中	中	中	中	中	農	中	中	中	中	農
新潟	愛媛	京都	愛知	千葉	長野	福島	滋賀	熊本	石川	長野	佐賀	長野

製絲科 第三學年 二九

淺井 春夫	農靜岡	坂本 孝子	中琦玉
大根田 丑一郎	中栃木	大野 久藏	中靜岡
佐藤 與四次	中福島	北本 重郎	中鳥取
西 孝重	中福島	丹生谷 清六	中愛媛
本 間 久	中茨城	小笠原 喜代三	中島根
清水 逸五郎	中長野	櫻井 正敏	中茨城
岡田 吉次	中長野		
絹絲紡績科 第一學年 一六			
村島 徹	中茨城	小林 榮夫	中群馬
野口 新太郎	中長野	服部 虎雄	中農蠶愛知
佐藤 一	中長野	石井 久雄	中岐阜
清水 保	中愛媛	友松 董太郎	中愛知
植村 秀男	中大阪	伊藤 友次郎	中岐阜
巢山 喜吉	中熊本	河西 尙一	中長野

學 生	石原石司	菊池精一	町田壽男	宇田虎一郎	向井政彌	細川潔	伊藤富次	井上一郎	堀江文雄	小田切四郎	宮澤茂雄		高橋利光
						養蠶科	中愛知	農林滋賀	中長野	中長野	絹絲紡績科		中兵庫
	群馬	巖手	群馬	群馬	群馬						第二學年		
	前田節男	桂應祥	勅使川原保	小中潔	佐藤義助	內田憲治	上田忠景	飯島貞雄	山岸清保	杉木政義	後藤政之	安倍恒雄	
	鳥取	朝鮮	群馬	兵庫	長野	埼玉	富山	長野	長野	富山	茨城	福島	

武田豊太郎	山形	小守末吉	宮崎
製絲科	選科生	五	
若林新一郎	滋賀	長田保美	長野
權寧	朝鮮	尾澤義朗	長野
小宮山太助	長野		
絹絲紡績科	選科生	二	
伊藤源平	長野	金子梓朗	長野
研究生	絹絲紡績科	一	
關川宗男	長野		

二、學生地方別

地方	養蠶科	製絲科	絹絲紡績科	計	百分率
北海道	一年 二年 三年 計	一年 二年 三年 計	一年 二年 三年 計		
青森	一			一	〇・六

田手城形島潟木城葉川京玉馬野梨岡知阜

學

生

二 三 三 五

三二 四一一一 一三 一 六二一

[illegible]

二八二三^一四一一 一六二二一七三一

— — — 九 — — —

二 一 九 一 三 一

四 一 一 一 一 二 三

一六四 三 二 一三一二八一



三 二 七二

五 一 四 二 一
一 七 六 三 一 六 三 一 二 一 三 四 〇 八 三 一

二、八 九、七 三、四 一、七 三、三 三、四 一、七 〇、六 一、一 六、二 一、七 二、三 五、七 四、五 一、七 〇、六

學生出身學校別

計	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	長崎	佐賀	福岡	大分	愛媛
二二三五一九	一			一		一	一		一
七六二五二二九	一		一		一	一			二
七六一六				一		一		三	二
八				一					一
〇									
二四				一					一
一七六二〇〇、〇	一	〇、六	三	一、七	二	一、一	一〇、六	一、七	二、八

地方	出身學校	養蠶科			製絲科			絹絲紡績科			計
		第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	
北海道											
青森	縣立青森中學校			一							一

新 潟	福 嶋					山 形			宮 城		巖 手	秋 田	
縣立 新潟中學校	全 白石中學校	全 安積中學校	全 會津中學校	全 福島中學校	縣立 相馬中學校	私立 米澤中學校	全 置賜農學校	全 村山農學校	縣立 莊內中學校	私立 東北中學校	全 角田中學校	縣立 築館中學校	
	一							一		一			
						二		四		一	一	一	
	一					二		四	一	一	二	一	
一					一								
	一						一			一			
一			一	一	一								
二		一	一	一	二		一			一			
			一										
				一									
一	一		一		一			一		一			
		一				二	一	四		一	二	一	
一				一	一								
二	一	一	二	一	二	二	一	四	一	一	三	一	

	神奈川	千葉	茨城	栃木	
全 私立 成城中學校		全 縣立 大多喜中學校	全 縣立 太田中學校	全 縣立 下野中學校	全 長岡中學校
全 東京中學校		全 佐倉中學校	全 龍ヶ崎中學校	全 真岡中學校	全 小千谷中學校
		全 千葉中學校	全 水戸中學校	全 宇都宮中學校	
			—	—	—
		—	— — —		—
			— — —	—	—
		—	三 — 二	— —	— 二
—			—		
—					
—		— —		—	—
三		— —	— — —	—	—
		—	—		
—					
—		—	—		
—		—	二 —	—	—
— —		—	— — —		—
—		— —	— — —	— —	二
— 三		二 — —	四 — 三 —	— — —	— 三

長 野						群 馬	埼 玉	東 京			
全	全	全	全	全	縣立	全	縣立	全	全	全	全
小縣蠶業學校	飯田中學校	上田中學校	長野中學校	松本中學校	野澤中學校	前橋中學校	秩父農學校	海城中學校	高輪中學校	目白中學校	郁文館中學校
二	一	二						一			
		三		一			一			一	
	一			一		一	一				
二	二	五		二		一	一	一		一	
二	一	二		二							
二		一		一	二		一				
	一	一	一					一			一
四	二	四	一	三	二		一	一			一
	二			一		一					
一		一	一						一		
一		三	一	一		一			一		
四	二	六		三		一			一		
三		五	一	二	二		一	一		一	
	二	一	一	一		一	一				一
七	四	二	二	六	二	一	一	一	一	一	一

[illegible]

奈良	富山	石川	福井	滋賀	三重	岐阜	
	縣立富山中學校	縣立金澤第一中學校	縣立大野中學校	縣立長濱農學校 全 水口農林學校	縣立第一中學校 全 第三中學校 全 富田中學校 全 三重農林學校	縣立東濃中學校 全 大垣中學校 全 農林學校	全 名古屋中學校 全 東海中學校
					—	—	
				二	— —		
			—				
			—	二	— — —	—	
						—	
		—					
				—	—		
		—		—	—	—	
						—	— —
—	—			—			
—	—			—		—	— —
					—	— — —	— —
—	—	—		— 二	— —		
			—	—	—		
—	—	—	—	— 三	— — — —	— — —	— —

廣島	岡山	島根	鳥取	兵庫	京都	大阪	和歌山
縣立福山中學校 私立廣陵中學校	縣立津山中學校 私立興讓館中學校		縣立米子中學校 全鳥取中學校	縣立姫路中學校 全豐岡中學校 全洲本中學校 全蠶業學校	府立福智山中學校 全第三中學校	府立茨木中學校	縣立新宮中學校
				—			
					—		
—					—		
—				—	—		
—	—		—	—			—
	—						
			—		—		
—	—		二	—	—		—
				—		—	
				—		—	
—	—		—	—		—	—
	—				—		
—			—		二		
—	—		二	—	二	—	—

山口	香川	德島	高知	愛媛	大分	福岡	佐賀
縣立 徳山中學校 全 萩中學校 私立 鴻城中學校	縣立 高松中學校	縣立 徳島中學校 全 脇町中學校	縣立 第三中學校	縣立 松山中學校 全 宇和島中學校 全 西條中學校 全 周桑農蠶學校	縣立 大分中學校 全 中津中學校		縣立 佐賀中學校
			一		一		一
	一		一	一	一		一
		一			一		一
		一		一	一		一
		一 一		一 一	二		一
				一			
				一			
		一		一	一		二
					一		二
		一	一	一	一 一		
	一			一 一	一		二
				一	二		二

三、學生修業學校別

計	朝鮮	沖繩	鹿兒嶋	宮崎	熊本	長崎
	府立平壤中學校		縣立川内中學校		縣立熊本中學校 全鹿本中學校 全八代中學校	
二二三			一			
三五					一	
一九七			一		一	
六二五	一					
二二二					一	
二九七					一	
六六	一				一	
八二四					一	
六六三	一		一		一	
五五八					一	
四八二					一	
七六	一		一		一	

修業學校	養蠶科	製絲科	絹絲紡績科	計	百分率
中學	六五	六二	二二	一四八	八四、一
農業學校	一一	一四	三	二八	一五、九
計	七六	七六	二四	一七六	一〇〇、〇

五、學生年齡調

(大正九年六月調査)

科	養蠶科	製絲科	紡績科
級	第一學年 第二學年 第三學年	第一學年 第二學年 第三學年	第一學年 第二學年
最			
高	二一、 ^年 一一 二五、〇一 二四、〇四	二三、〇七 二四、〇五 二八、一一	二一、〇九 二五、〇一
最			
低	一八、 ^年 〇五 一八、〇五 一九、〇五	一七、〇七 一八、〇七 一九、〇七	一七、一一 一九、〇〇
平			
均	二〇、 ^年 〇二 二〇、一〇 二一、一一	一九、〇八 二一、〇二 二二、〇四	一九、一一 二一、〇六

六、入學志願者及入學者修業學校別

修業學校	養蠶科	製絲科	絹絲紡績科	計	百分率	百人ニ對スル入學率
入學試驗	入學者	入學者	入學者	入學者	入學者	入學者
志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
第一回	二三三	三六一八五	四〇	三一八	七六	七九
						八四
						二四

農業學校								中學校								
第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	第十回	第九回	第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回
二四	三九	一四	一五	一六	二八	二九	五五	八八	七一	一〇六	一四五	七三	四六	五四	七二	一一
	三	三	五	四	七	三	一一	一五	二四	二六	三三	二九	二三	二五	二七	三二
三四	一三	七	一	一二	二〇	二五	二六	八三	七八	九三	一一	四四	三七	五〇	四五	九八
五	一	一	三	五	七	三	三	一五	二〇	二三	三一	二三	二二	二六	二五	三三
								九八	二〇							
								一三	八							
五八	五二	二一	二六	二八	四八	五四	八一	二六九	一七〇	一九九	二六六	一一七	八三	一〇四	一一七	二一九
五	四	四	八	九	一四	六	一四	四三	五二	四九	六四	五二	四五	五一	五二	六五
二三	一六	一五	二三	二一	二九	一九	二〇	七七	七四	七七	八三	八四	七四	七八	七〇	七八
九	七	七	一五	一五	二一	八	一六	八四	七九	八九	九四	九三	八三	八五	七八	九一
九	八	一九	三一	三二	二九	一一	一七	一六	三一	二五	二四	四四	五四	四九	四四	三〇

師範學校					工業學校											
第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	第十回	第九回	第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	第十回	第九回
		—	—												四七	二八
		—													三八	
—			—	二	—		二	—	二	—			二		一七	一七
										—	—		二		四五	
					二										一四	八
															一二	二
—		—	二	二	二	—		二	—	二	—				七八	五二
		—								—	—		—		一三	八
—		—	—	—	—	—		—	—	二	—				二二	二三
		—								二					一六	二一
○	：	二	○	○	○	○	：	○	○	五	一	：	○	：	一	二六

同 八 年 度	同 七 年 度			同 九 年 度		
二九	二八	一九	一六	四八	四四	同
合 計		二一〇	二六	一八九	二八	五四
		三九九				

三、卒業者本籍就職地方別

地 方	本 籍		地 方	
	養蠶科	製絲科	計	計
北海				
青森				
秋田				
巖手				
宮城				
山形				
福島				
新潟				
栃木				
茨城				
千葉				
合 計		二一〇	二六	五四
		三九九		

京大和奈富石福滋三岐愛靜山長群埼東神
歌

都阪山良山川井賀重阜知岡梨野馬玉京川

卒
業
者

一二四四一二 二四七〇一六 四一三八一五

五 四一二二一一四三 一三一 六三七三二三

六二八五三四一三八 〇三三六 一〇〇一三八

三二二二二三一 六三三五一 四一五四八九一

四二六一 一二一四四五 一〇一一六三

七四八三二三二七七 二七〇二 八二五九五六

一五九

沖鹿宮熊長佐福大愛高德香山廣岡島鳥兵
兒

島崎本崎賀岡分媛知島川口島山根取庫
繩

一 二 三 三 三 三 五 四 三 五 五 三 四 三 一

四 三 二 一 二 四 一 二 二 二 二 二 三 二 三

五 二 六 五 四 五 九 四 四 二 二 七 七 五 七 五 四

一 二 四 五 二 四 二 二 三 四 一 四

四 一 一 一 二 一 一 一 二 四

一 二 八 一 一 一 七 二 四 二 三 四 五 三 八

四、卒業者職業別

朝鮮	一四	一六	一三	一一	三八五
那	二	六	三	一	一八〇
灣	三	一	三	一	二〇五
逸	二	六	三	一	一八〇
計	二一〇	一八九	三九九	二二〇	三八五

種別	養蠶科	製絲科	計	百分率
農商務省	一二	一	一二一	三
蠶業試驗場			二	一
生絲検査所			五	二
朝鮮總督府	五		一	二
臺灣總督府	一		五	一
縣廳	五二	三	五	一
郡役所	一二	二	四	一
學校	七四	一〇	八四	二
卒業者				一六一

備考	蠶絲業組合	蠶絲會社	製絲工場	紡績會社	商會	自營	兵役	其他	計
死亡	二五	九	二	五	四	二	四	五	二〇五
九	一八〇	一七	七	一九	二七	一五	七七		
一四	三八五	二一	二	四三	二七	一五	八二	九二	
四	一〇〇	五	三	一	七	四	二	二	一

附 錄

一、上田蠶絲專門學校校友會規則

第一條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ智德ヲ磨キ身體ヲ鍊リ以テ本校ノ校風ヲ發揮スルヲ目的トス

第二條 本會ヲ上田蠶絲專門學校校友會ト稱ス

第三條 本會ノ會員ハ左ノ四種トス

一、通常會員 本校學生

二、特別會員 本校卒業生本校修業生

三、贊助會員 本校職員及本校ニ緣故アル者

四、名譽會員 會長ノ推薦ニ係ル者

第四條 本會ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ七部ヲ置ク

一、總務部

二、文藝部

三、劍道部

四、柔道部

五、庭球部

六、弓道部

七、山岳部

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名
- 二、副會長 一名
- 三、部長 七名
- 四、評議員 若干名
- 五、委員 若干名

第六條 役員ノ職務ハ左ノ如シ

- 一、會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス
- 二、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長ノ故障アルトキハ之ヲ代理ス
- 三、部長ハ會長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ事務ヲ統轄ス
- 四、評議員ハ役員會議ニ列席シ意見ヲ述べ議決ニ參與ス
- 五、委員ハ部長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ分擔事務ニ從事ス

第七條 會長ニハ學校長ヲ推戴シ副會長、部長及評議員ハ贊助員中ニ就キ會長ノ指名トシ委員ハ特別會員及學生ノ互選トス

第八條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年二月之ヲ選任ス

第九條 本會全體ニ關スル事項ハ役員會議ノ議決ニ依ル

役員會議ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス

一、規則及會則ノ制定及改廢

二、豫算及決算ニ關スル事項

三、運動會ニ關スル事項

四、其他重要ナル事項

第十條 役員會議ハ毎年二月會長之ヲ召集ス但シ必要ノ場合ニハ臨時召集スル

コトアルヘシ

第十一條 役員會議ハ総役員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレバ議事ヲ開キ議

決ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 役員會議ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決ス

ル所ニ依ル

第十三條 本會ノ經費ハ會費及寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

一、通常會員ハ入會ノ際入會金トシテ金壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

二、通常會員ハ會費トシテ授業料納期第一期及第二期ニ金貳圓第三期ニ金壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

三、特別會員ハ會費トシテ毎年四月金壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

四、名譽會員贊助會員ハ別ニ會費ヲ徵收セス

第十四條 通常會員ハ基金トシテ卒業又ハ修業ノ際金貳圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

第十五條 本會ノ會計年度ハ三月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

第十六條 本會ノ收支決算ハ毎年三月之ヲ報告ス

第十七條 本規則ハ役員會議ノ議決ニヨリ之ヲ改正スルコトヲ得

前項ノ議決ハ出席役員四分ノ三以上ノ多數ヲ得ヘキモノトス

第十八條 委員ノ選舉及各部ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

二、校友會役員

會長 針塚長太郎

副會長 三吉米熊

總務部長 阿形輝司

委員 林貞三 平澤勝 岩瀬義夫 堀田啓咨

佐藤彰二 酒井利夫 井上一郎 門田秀太郎

住吉忠平 村島徹

文藝部長 三谷徹

委員 須田圭二 森山二郎 宮崎清治 仲内靜

鈴木教吾 好士泰造 安中勳 南澤清

杉木政義 中村由枝 倉橋琢而 小林榮夫

勸道部長 和田仙太郎

委員 小林繁 津留稔 戸村吉郎 田中秀吉

堀江文雄 竹村中和 野村又次 野口新太郎

柔道部長 遠藤保太郎

委員

久保善之助 富田乙松 大高雄三 堀忠太郎

小田切四郎 尾藤省三 塚田卯平太 植村秀男

庭球部長

佐藤利一

委員

荻野轍間 富田庄三郎 四方定雄 田村齊

山岸清保 內田憲治 井川清 石井久雄

弓道部長

佐藤春太郎

委員

齋藤鳳一 園田駒吉 柴田末治 黒岩覺

上田忠景 櫻林幸雄 林直助 宮澤茂雄

山岳部長

井上柳梧

委員

吉川孟文 櫻井正敏 柏倉豐吉 日開猪澤

伊藤富次 服部正一 川船卓爾 阿倍恒雄

評議員

川瀬惣次郎

大瀧照太郎

石倉新十郎

上田蠶絲專門學校一覽終

附

錄

新	原	早	北
樂	田	川	島
顯	親	直	鉞
理	雄	瀨	雄

大正九年六月廿五日印刷

大正九年六月三十日發行

(非賣品)

編輯兼
發行者

上田蠶絲專門學校

電話四〇六番

長野縣上田市乙四百九十番地

印刷者 中澤勝治郎

電話一二三番

長野縣上田市五千七百九十五番地

印刷所 中澤活版所

電話一二六番